

パブリック・コメントにおける主な御意見と本市の考え方

第1章 計画の位置付け

第2章 京都の観光・MICEの意義・効果、現状・課題

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の意義に関する記載が弱い。市民が、観光がもたらす効果をより具体的に理解できるように明確に記載すべき。 ・観光による収益が市の収入を増やし、結果的に福祉や教育等を支えているということを大きく分かりやすく記載すべき。 	2	第2章「1 京都の観光・MICEの意義・効果」の記載を更に充実させました。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗数等の政令指定都市比較として、人口千人当たりの数での順位が記載されているが、小さい都市ほど有利になるのではないか。 	1	飲食店数等の政令指定都市間比較について、実数ベースの比較に修正しました。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「国連観光・文化京都会議2019」で採択された京都宣言について言及するべき。 	1	第2章「2 京都の観光・MICEの歩み」中「京都の観光・MICEの歩み」に、「国連観光・文化京都会議2019」について追記しました。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE誘致をする上での京都の強みを記載してほしい。 	1	第2章「3 京都観光振興計画2025」における主な取組、現状・成果、課題」中の「⑤MICEの振興」に京都の強みを追記しました。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界ランキングでは、京都を含む日本の多くの都市は海外他都市と比較して出遅れている状況」とあるが、何のランキングにおいて出遅れているのか不明瞭。 ・市民が読んでも分かるように、ICCA基準とJNTO基準の違いについて記載してはどうか。 	2	第2章「3 京都観光振興計画2025」における主な取組、現状・成果、課題」中の「⑤MICEの振興」に記載されているICCAについて注釈を追記するとともに、「4 京都の観光・MICEの現状」中の「⑤MICE」にJNTO基準及びICCA基準の内容について追記しました。

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑等の課題もあると思うが、京都にとって重要な産業である観光を引き続き大切にしてほしい。 ・京都市の持つ歴史的・文化的ポテンシャルは高く、観光やMICEによる経済波及効果は重要である。これらは単なる利益にとどまらず、都市の長期的成長に資するものである。 ・観光・MICEの意義・効果に世界平和を位置付けていることが良い。 ・外国人観光客の増加は、グローバル社会において誇らしいことであり、京都市のポテンシャルだと感じる。観光課題対策と併せて、引き続き観光PRに取り組んでほしい。 	6	<p>観光は、人々の心や人生の豊かさを高めるとともに、京都のまちの持続的な発展を支え、市民の暮らしを豊かにし、さらには国際平和に貢献するものです。</p> <p>今後、こうした観光・MICEの意義・効果を広く発信するとともに、次期計画を推進することで、多彩な共創で未来を切り拓く観光・MICEを実現してまいります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の呼応型の政策から大きくパラダイムシフトしたことを見計画に明記しないと、迷惑と感じている市民の理解を得られないのではないか。 ・京都の魅力が失われつつあるため、観光客の「数」ではなく「質」を重視した対策を進めてほしい。 	2	<p>第2章「2 京都の観光・MICEの歩み」に記載のとおり、本市では、「5,000万人観光都市」の実現後、「量の確保」から「質の向上」を図る観光へと大胆な転換を図っております。</p> <p>今後、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」において、観光課題対策の強化や、観光に対する市民の共感の輪の拡大、観光が京都にもたらす効果の最大化等に取り組んでまいります。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の国に依存しない観光客誘致が重要であり、観光客の出身地域に関するデータを計画に盛り込むべきである。 ・観光や産業を特定の国に依存するのはリスクがあるため、アジアのみならず欧米の観光客を増やす必要があると感じる。 	2	<p>第2章「4 京都の観光・MICEの現状」中「①観光客数・観光消費額」に、外国人観光客の国・地域別の内訳を記載しております。今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「サ 安心・安全、観光関連産業の危機対応力の向上」に記載のとおり、災害等が発生した際のリスクを緩和するため、平常時から、特定の国や地域に偏らない誘客を進めてまいります。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪IRの整備は京都にとって大きな課題となるため、その旨も計画に記載してはどうか。 	1	<p>第2章「5 世界・国内の動向と今後の見通し」中「②国内の動向」に、大阪IRの開業について記載しております。今後、都市間競争の激化が見込まれる中、京都の強みを活かしたMICE誘致の強化を図ってまいります。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な効果を実感しているのは観光関連事業者だけ。観光がもたらす市民への恩恵は何か、宿泊税の使途は何か。 ・ 観光に頼った経済やまちづくりは、外資に頼るばかりで脆弱であり、京都を破壊する行為に他ならない。市民が安心して生活できる京都にして子供たちに引き継いでほしい。 ・ 京都市は観光に力を入れ過ぎており、市民生活が圧迫されている。観光ではなく、福祉、子育て、教育に力を入れてほしい。 ・ 観光の経済効果が地域に還元され、市民のために活用されているのか疑問に思う。外資系企業やホテルが恩恵を受けても地域に還元されなければ意味がないと思う。 ・ 近年開業している宿泊施設の多くは外部資本によるものであり、消費の外部流出につながっている。企画、移動、宿泊、販売等の各業態を地元資本で経営すべきである。 	10	<p>観光は、人々の心や人生の豊かさを高めるとともに、京都のまちの持続的な発展を支え、市民の暮らしを豊かにし、さらには国際平和に貢献するものです。</p> <p>とりわけその経済効果は、宿泊業や飲食業、小売業だけでなく、農林業、伝統産業、清掃やクリーニング業等のサービス業、広告業等の様々な産業に波及するなど、活動する事業者の本店所在地等の別にかかわらず、幅広い産業と関わりを持つ「総合的な産業」として、市民の暮らしを支えています。</p> <p>また、宿泊税は、国際文化観光都市としての魅力を高め、及び観光の振興を図る施策を推進するための目的税であり、観光・MICEの振興や、観光課題への対策はもとより、文化芸術の振興、歴史的・伝統的な町並み景観や自然景観の保全、社会インフラの機能強化等の利便性向上や安心・安全の確保など、市民・観光客双方の満足度を高めるための施策にも活用してまいります。</p> <p>住民福祉の向上のため、福祉、子育て、教育等の各種政策をしっかりと推進することはもとより、今後、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」において、観光課題対策の強化や、観光に対する市民の共感の輪の拡大、観光が京都にもたらす効果の最大化等に取り組むとともに、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」「MICEでつどうプロジェクト」を推進し、都市の魅力・活力の向上につながる観光・MICEを目指してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「観光客の約8割は日本人、長期的には減少傾向」という記述があるが、外国人観光客だらけであり実感とはかけ離れている。「外国人観光客の急増」という記述とも矛盾していると感じる。 	1	<p>京都を訪れる外国人観光客数は直近10年で約2.3倍となっていること（平成27年482万人、令和6年1,088万人）、外国人観光客の75.9%は京都初訪問であること（令和6年）、初めて京都を訪れる観光客は人気スポットに集中する傾向が見られること等から、一部の人気スポット周辺を中心に外国人観光客が非常に目につきやすい状況にあるものと認識しております。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光が国際平和につながるとは思えない。 	1	<p>観光を通じて国内外の人々が京都に集い、交流することは、お互いの国や地域の文化・習慣に対する理解を深め、多様性を認め合う思いが育まれることにつながり、ひいては国際平和にも貢献するものと認識しております。</p>

第3章 京都の観光・MICEが目指す姿

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す姿が抽象的であり、2030年に京都がどのようなまちになっているのかが想像できないため、三者（とりわけ市民）が共通理解できる表現にした方が良い。 ・ 目指す姿が抽象的であるため、市民向けに平易な記述にしてほしい。 ・ 地方自治体の政策は住民の福祉の増進を図ることが目的であるが、計画の目指す姿では混雑に迷惑している住民のことが考慮されていない。観光行政も住民のことを最優先に考えてほしい。 ・ 「観光振興を通じて、文化の継承や新しい文化の創造を目指す」「観光振興を通じて、景観を守るとともに美しい景観づくりを目指す」等、「京都創生」の理念を特筆してほしい。 ・ 観光が「多様性を認め合う思いを育む」という点はやや飛躍がある。多様性理解を促進するためには市民と観光客が交流することが必要であり、目指す姿においてその点を強調すべき。 	9	<p>第3章「1 京都の観光・MICEが目指す姿」の本文について、抽象的な表現は避け、より分かりやすい文章に修正しました。</p> <p>なお、中間案においても、徹底した観光課題対策に取り組むこと、観光の力が文化や景観を守り、育むことに貢献すること、多様な主体との交流を促すことを内包した表現としていたところですが、改めて、「2 目指す姿の実現に向けて」も含め、この点を明記しました。</p>

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「観光客のためのまち」と「住む人のためのまち」の二者折衷ではなく、双方が気持ちよく共存できることが重要である。観光が京都の文化を守り、人と人をつなぎ、世界と京都を結ぶことに期待する。 ・ 京都が注目されることは誇らしいが、過度に混雑している状況。観光と市民生活がどちらも無理なく続けられる「ちょうど良いバランス」をつくることが大切だと思う。 ・ 京都は世界的な観光都市であると同時に、市民が生活しているまちである。両方を大切にしながら、観光・MICEを通じて新しい価値を生み出していくことを期待する。 ・ 「交流」と「持続性」を軸にした京都らしい観光振興の推進を強く期待する。 ・ 「市民・観光客・事業者の三者が協力して、責任ある観光を進めること」という考え方には賛成である。 	15	<p>目指す姿の実現に向けては、その前提として、市民生活との調和・両立の下、観光・MICEが持続可能なものであることが求められると認識しております。こうした考えの下、今後、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」において、観光課題対策の強化や、観光に対する市民の共感の輪の拡大、観光が京都にもたらす効果の最大化、京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくりに取り組んでまいります。</p> <p>併せて、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」及び「MICEでつどうプロジェクト」を推進し、共創を通した新たな文化や産業の創出、京都の魅力・活力の向上につながる観光・MICEを目指してまいります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ この計画で「新しい・目玉となる」対策は何か。 	1	<p>次期計画では、引き続き「持続可能な観光」を目指すとともに、その先を見据え、新たな文化や産業の創出、京都の魅力・活力の向上につながる観光・MICEを新たに目指すこととしております。</p> <p>また、とりわけMICE政策について、その重要性に鑑み、計画のタイトルを「京都観光・MICE振興計画2030」（仮称）としたところです。</p> <p>施策レベルでは、各プロジェクト中「①推進する施策」において強化、充実等と記載しているものについて、取組強化等を行う予定です。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都のルールに対する知識や経験の差が、観光客の行動の差として表れている。リピーターはルールを理解している方が多く、リピーターの獲得強化は必要な視点だと感じる。特にMICE参加者はルールに対する知識のある方が多く、MICE都市として人気となることで、質の良いリピーター層の増加につながると思う。 	1	<p>観光客は、京都への訪問回数を重ねるにつれて、日本や京都の文化や習慣に対する理解が深まるものと思われます。</p> <p>今後、第3章「2 目指す姿の実現に向けて」に記載のとおり、リピーター化、長期滞在化を図り、京都により深く関わっていただくよう取り組むことで、多彩な共創を生み出し、京都の魅力の維持・継承、新たな文化や産業の創出による京都の魅力・活力の向上につなげてまいります。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客は減ってほしい。また、「観光振興」は観光客へのおもてなしを行政に強要されている気分になる。行政が京都観光を振興する必要はない。 ・ 混雑に伴い、京都に住む魅力を感じられなくなってきた。観光により都市が発展し、人口が増える未来が見えない。市民生活と観光の両立は現実的ではない。 ・ 観光客による混雑や悪臭、マナー違反等に耐え兼ねるため、コロナ禍の生活に戻ってほしい。 ・ 観光客に向けてのプロモーションは行う必要がないと思う。 ・ 観光客数を減らしてほしい。たとえ観光客がルールを守っていても、生活圏に大勢の人人がいるのはつらい。 	9	<p>一部観光地等の混雑やマナー問題等の観光課題は重要な課題であり、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」において、全庁を挙げて観光課題対策の強化等に取り組んでいく必要があります。</p> <p>一方で、観光は、人々の心や人生の豊かさを高めるとともに、京都のまちの持続的な発展を支え、市民の暮らしを豊かにし、さらには国際平和に貢献する重要な役割を担うものです。このため、次期計画では、目指す姿として「京都の魅力・活力の向上につながる観光・MICE」を掲げ、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」及び「MICEでつどうプロジェクト」を推進することとしております。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人観光客はインバウンドによる混雑を避けて京都の旅行を控えているため、これ以上外国人観光客を誘致するのではなく、日本人観光客を誘致する施策へシフトしてほしい。 ・ 外国人を優先するような施策が気になる。多様性を認め合うことよりも、外国人が京都のルールに合わせて観光する方が世界平和につながると思う。 ・ 日本人観光客の減少は、外国人観光客の増加やマナー違反によるものである。外国人への過剰な配慮はやめて、外国人観光客数を減らしてほしい。 ・ 日本人だけで経済は回るため、外国人を受け入れる必要はなく、MICE以外の観光政策は不要である。お金を落とす仕組みばかり考えるのではなく、日本人が誇りをもって日本を愛せるよう考えてほしい。 	6	<p>本市では、世界文化自由都市宣言の下、各種政策を推進しているところであり、第3章「2目指す姿の実現に向けて」に記載のとおり、日本人観光客は「京都ファン」の中心的存在であり、かけがえのないパートナーであるとともに、外国人観光客は、異なる文化を持つ新鮮な視点から、新たな魅力に気付かせてくれる大切な存在であると考えております。</p> <p>このため、次期計画では、原則、日本人・外国人を区別せず記載しております。国内／国外の別も含め、各種事業の対象となる国・地域等については、最新の観光動向等を踏まえ、事業の企画・立案の際に個別に精査を行い、事業を実施してまいります。</p> <p>なお、現時点では、全国的な動向として、国内旅行市場が長期的に伸び悩んでいるといった課題はあるものの、全国と比較して京都市の日本人観光客数が減少傾向にあるといった統計データはございません。他方、京都への旅行を控えるような声や、日本人観光客の減少を肌で感じているといった観光関連事業者の声も聞いており、引き続き、動向を注視してまいります。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人観光客によって、混雑等住民が被害を受けている。外国人より日本人観光客、観光客より住民が優先されるべきではないか。 	1	<p>目指す姿の実現に向けては、その前提として、市民生活との調和・両立の下、観光・MICEが持続可能なものであることが求められると認識しております。こうした考えの下、今後、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」において、観光課題対策の強化や、観光に対する市民の共感の輪の拡大、観光が京都にもたらす効果の最大化、京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくりに取り組んでまいります。</p>

第4章 3つのプロジェクト（総論／目標値）

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 各「令和12年に向けて目指す値」について、なぜその数値を採用したかを記載してほしい。 「令和12年に向けて目指す値」について、「観光客の満足度」の目標値の根拠を示してほしい。 「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」0%は、理想としては正しいが、実現不可能。理想を目標値とするならば、他の項目も目標値は0%か100%でなければおかしい。それぞれの目標値の設定理由を記載してほしい。 	4	目標値には、「非常に高い値」と、原則「『直近の値』+約5pt」の2種類設け、各プロジェクトに1つ、プロジェクトを代表する項目に「非常に高い値」を設定することとしており、第4章「1 プロジェクトの概要」にその旨記載するとともに、どの項目が「非常に高い値」に当たるかを明記しました。
2	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年に向けて目指す値」について、リピーター関係の似た指標が2つ設定されているが、「リピーターの観光客における再来訪意向」は単に「再来訪意向」でよいのでは。 「令和12年に向けて目指す値」のうち「リピーター率」と「リピーターの観光客における再来訪意向」はどちらも似たような項目に見えるため、整理の余地があると感じる。 	2	「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「令和12年に向けて目指す値」の「リピーターの観光客における再来訪意向」を、「京都市観光振興審議会」において御意見のあった「京都に再び訪れたいと思う観光客の割合」及び「親しい人に京都観光を勧めたいと思う観光客の割合」に変更しました。
3	<ul style="list-style-type: none"> 「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」0%という大胆な目標に感銘を受けたが、もっと打ち出して記載しても良いのではないか。 	1	全般にわたり「令和12年に向けて目指す値」を強調するよう修正しました。
4	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議開催件数の目標値である400件の根拠が不明である。MICEを契機としたビジネス機会の創出や、イノベーション・スタートアップの促進、ユニークベニュー、サステナブルなMICE等の意味も伝わりづらく、また、各施策がどのように目標達成につながるかを記載すべき。 	1	<p>目標値には、「非常に高い値」と、原則「『直近の値』+約5pt」の2種類設けているところ、国際会議開催件数については、コロナ禍以降、回復基調にあることから、直近の値である令和6年ではなく、過去最高を記録した令和元年の383件+約5ptの400件を目標値として設定しており、「MICEでつどうプロジェクト」にその旨を明記しました。</p> <p>また、「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」にサステナブルなMICEについての説明を追記しました。</p> <p>京都の強みを活かしたMICE誘致の強化や、MICEの認知度向上、MICEの効果の見える化によるMICEの受入れや参入、誘致・開催の機運醸成、さらには、市民や学生、研究者、企業等との交流や学びの場の創出等によるMICEの効果の最大化に取り組むことで、目標値の達成、さらには、突き抜ける国際MICE都市の実現につなげてまいります。</p>

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」0%は良いことであり、目標値を変えずに具体的な施策の実行を期待する。 「令和12年に向けて目指す値」のうち「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」0%は挑戦的な目標だと思う。少しでも数値が近くなるよう取組を進めてほしい。 オーバーサーリズムと言われるが、主要スポットから少し外れると混雑していない印象である。一方、主要スポット近辺の市民は大変な迷惑だろうから、「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」の0%に向けて頑張ってほしい。 	5	観光課題への対策の状況を評価するために設定している「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」の目標値0%は、非常に高い目標と考えておりますが、喫緊の課題である観光課題に対し、迷惑している市民をゼロにするという意気込みの下、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」を推進してまいります。

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
2	<ul style="list-style-type: none"> 現状分析は非常によく行われているが、それを踏まえ、本来であれば施策の軽重を変えていくべきところ、掲げられている施策は從来と変わり映えしない印象。市の課題感と各施策がどのように関係しているのか明確にする必要がある。 目標達成に向けて、計画をどう具体的に実行していくかが重要である。 「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」0%について、具体的にどのような施策で目標達成を目指すのかが気になる。 	4	<p>施策の軽重については、各プロジェクト中「①推進する施策」において強化、充実等と記載しているものについて、取組強化等を行う予定です。</p> <p>また、本計画に基づき実施していく個別の事業については、最新の観光動向等を踏まえ企画・立案し、予算査定、市会での審議等を経た上で確定するものであり、各年度ごとに精査してまいります。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 三者が互いに挨拶をする関係性が重要である。三者それぞれの満足度を常に調査し公表するとともに、それぞれの不満点の解決策を広く意見を求めるようにしてほしい。 「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」のうち「住んでよし」の部分は十分に数値化されていないように感じる。混雑やマナー問題等には、より適切で実効性のあるルールや仕組みづくりが求められている。 	2	<p>本市では、例年「京都観光総合調査」、「京都観光事業者・従事者実態調査」及び「京都観光に関する市民意識調査」を実施し、京都観光に関わる三者の意識・満足度を幅広く調査しております。併せて、観光課題とその対策等に関する御意見を募集するWebフォームを開設し、幅広い意見聴取に努めているところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年に目指す値」は過去の実績を少し上乗せした程度に過ぎず、何を「目指す」のか意思が見えてこない。 	1	<p>各プロジェクトの頭書きに、当該プロジェクトがどのような目的をもって取り組むものかを明記しております。</p> <p>本計画の策定後、観光関連事業者・従事者等や、業界団体、関係団体はもとより、市民、観光客等に対しても、本計画の内容の分かりやすい周知に努めてまいります。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年に向けて目指す値」のリピーター率や再来訪意向は、修学旅行の方面変更などの現状を認識して設定すべきである。 	1	<p>第2章「6 課題」に記載のとおり、一部の学校で修学旅行先を京都から他の方面に変更する動きが見られることは重要な課題であると認識しております。</p> <p>こうした状況も踏まえつつ、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」の「令和12年に向けて目指す値」を検討・設定したところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 3つのプロジェクトを推進することを国内外に積極的に周知してほしいが、「暮らすように」という点が、何をしたいのかが一見伝わりづらい。 	1	<p>今後、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」及び「MICEでつどうプロジェクト」を全庁を挙げて推進していく旨、積極的に周知してまいります。</p> <p>なお、「暮らすように旅をつむぐ」とは、何度も訪れたくなる、長く滞在したくなる、さらには住みたくなるような京都観光を推進するものであり、その点も併せて周知してまいります。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年に向けて目指す値」の国際会議開催件数の世界ランキングが30位というのはどの程度凄いことなのか。誇らしいことなのであれば、もっと市民にPRすべきである。 	1	<p>近年、国際会議開催件数のランキングは変動が激しく、特に欧州の中堅都市や中東・アフリカの首都を中心に躍進が見られるなど、都市間競争が激化している中、コロナ前の過去最高であった令和元年の35位から更に5位ランキングを上げるという非常に高い目標を設定しております。</p> <p>「MICEでつどうプロジェクト」中「ウ MICEの認知度向上、MICEの効果の見える化の推進」において、MICEの意義や効果を市民に対して分かりやすく発信してまいります。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> MICEに関する「令和12年に向けて目指す値」は依然として量を重視する目標に見える。質を追い求める姿勢が見えるといい。 	1	<p>「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、環境への配慮や地域貢献等のSDGsに資するサステナブルなMICEの開催支援や京都の都市格の向上につながる会議の誘致・開催支援を通じて、質の高いMICEの誘致・開催支援に取り組んでまいります。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年度に目指す値」について、どのように目標を達成するかの具体的なロードマップが必要である。 計画全般にわたり、具体的にどのような施策を行うのか分からぬ。 	3	<p>本計画は、今後5年間の施策の方向性を定めることとし、個別の事業については記載しないこととしております。その上で、施策の軽重については、各プロジェクト中「①推進する施策」において強化、充実等と記載しているものについて、取組強化等を行うことを予定しております。</p> <p>なお、本計画に基づき実施していく個別の事業については、最新の観光動向等を踏まえ企画・立案し、予算査定、市会での審議等を経た上で確定するものであり、各年度ごとに精査してまいります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年に向けて目指す値」について、「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」0%は、現在の半分の数値にあたる40%程度が現実的ではないか。 「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」0%は非現実的である。 	3	<p>「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」の目指す値0%は、非常に高い目標と考えておりますが、喫緊の課題である観光課題に対し、迷惑している市民をゼロにするという意気込みの下、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」を推進してまいります。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年に目指す値」について、MICE関連の目標値が低いように感じる。 MICEに関する目標値が低く感じる。ポテンシャルを活かした野心的な目標や取組に期待したい。 	2	<p>目指す値には、「非常に高い値」と、原則「『直近の値』+約5pt」の2種類設け、各プロジェクトに1つ、プロジェクトを代表する項目に「非常に高い値」を設定しています。</p> <p>MICEでつどうプロジェクトでは、「国際会議開催件数の世界ランキング」について、近年、国際会議開催件数のランキングは変動が激しく、特に欧州の中堅都市や中東・アフリカの首都を中心に躍進が見られるなど、都市間競争が激化している中、コロナ前の過去最高であった令和元年の35位から更に5位ランキングを上げるという非常に高い目標を設定しております。</p> <p>第4章「1 プロジェクトの概要」に記載のとおり、長期的にはこの値に留まらず、さらに順位を上げることができるよう、MICE誘致の強化を図ってまいります。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 「令和12年に向けて目指す値」について、より分かりやすく記載するとともに、一部はもう少し野心的な目標を設定すべき。 	1	<p>目指す値には、「非常に高い値」と、原則「『直近の値』+約5pt」の2種類設け、各プロジェクトに1つ、プロジェクトを代表する項目に「非常に高い値」を設定することとしており、第4章「1 プロジェクトの概要」にその旨記載するとともに、どの項目が「非常に高い値」に当たるかを明記しました。</p> <p>いずれも容易に達成できるものではありませんが、達成に向けて積極的に取り組んでまいります。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 「つなぐ」や「つむぐ」などのワードは具体的に何をしたいのかが分かりにくい。覚悟を持って課題対策に臨むのであれば明確に意思が伝わる表現にすべき。 	1	<p>「京都の観光・MICEが目指す姿」の実現に向けては、京都観光に関わる様々な主体と共に取り組んでいく必要があることから、各プロジェクトの名称は、注意を引きやすく、また、印象に残りやすい表現を採用しております。</p> <p>観光課題対策については、「混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合」の0%を目指すという非常に高い目標を掲げており、当該目標の達成に向けて、全庁を挙げて取り組んでまいります。</p>

第4章 市民生活と観光をつなぐプロジェクト

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 市バス定時運行のため、バス専用レーンの明確化、路面表示の引き直しなど、京都府警察との連携を計画に記載してほしい。 	1	<p>いただいた御意見を踏まえ、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に、京都府警察と連携し取り組む旨を明記しました。</p> <p>今後、「道路の混雑対策」の具体的な取組として、パークアンドライドの推進や、清水坂観光駐車場のバス完全予約制、観光バスの路上滞留対策等に取り組んでまいります。</p> <p>また、本市では、市民生活を支える交通手段の維持・確保、都市の未来を見据えた公共交通の利便性・快適性の向上に向けて、新たな技術や多様なモビリティの活用等の取組を推進することとしており、いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 落書きやごみ投棄、文化財等の損壊は刑法等違反であり、公的機関による法執行が不可欠であるため、重点警戒区域への指定や、常設巡回警備や私服警察官の配置・増強、迅速な現行犯対応を要望する。 	1	<p>いただいた御意見を踏まえ、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に、京都府警察との連携し取り組む旨を明記しました。</p> <p>今後、「観光マナーの啓発」の具体的な取組として、外国人観光客向けの公式サイトやSNSでの多言語によるマナー情報の発信等、旅マエ（京都観光前の段階）から旅ナカ（京都観光中）までの一貫したマナー啓発に取り組んでまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊税を文化政策や景観政策に充当することで、納税者に納得していただくとともに、市民に観光の意義・効果を知ってもらうことが大切である。 	1	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「イ 観光に対する市民の共感の輪の拡大」に記載していた“宿泊税を活用した京都の魅力の向上”について、具体的に、文化・景観等の魅力の向上を図る旨を明記しました。</p>

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 京都には、まだ知られていない素晴らしい寺社が沢山ある。定番観光地周辺でも、混雑を回避して観光できる場所は沢山ある。定番観光地から少しづつ周辺に広げて回遊できるような取組が有効ではないか。 混雑によるイメージ悪化を避けるため、定番ではない京都の魅力をもっとPRし、分散化を図るべき。 オーバーツーリズムによる市民生活への影響は深刻である。混雑緩和のため、アプリやSNSでリアルタイムの混雑情報等の発信を強化し、行動変容を促すデジタル施策を強化すべきである。 京都市は人気の観光地とそれ以外で差があり、オーバーツーリズムの実感には温度差がある。観光客がうまく分散するような対策を強化してほしい。 人気スポットは混雑しているが、少し離れたエリアは静かで、魅力的なのにあまり知られていない。時間・場所の分散や広域周遊は大切な視点である。 	18	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「観光の時期・時間・場所の3つの分散」の具体的な取組として、「京の冬の旅」「京の夏の旅」の催行や、朝・夜観光等コンテンツ造成、市内の多様なエリアの魅力を発信する「とっておきの京都プロジェクト」や府市連携による周遊観光「まるっと京都」の展開等に取り組んでまいります。</p> <p>とりわけ令和6年度から、新たに京都市内の観光地情報や混雑状況のリアルタイム発信、手ぶら観光サービス窓口やトイレ、ごみ箱等の情報を一元的に発信する京都観光デジタルマップ（京スマ）を配信しているところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
2	<ul style="list-style-type: none"> 他府県からの自家用車の流入や観光バスの滞留による混雑が市内各所で散見される。これまでの対策に加えてより効果的な対策を検討してほしい。 警察と連携し、白タク行為への対策を求める。 	2	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「道路の混雑対策」の具体的な取組として、パークアンドライドの推進や、清水坂観光駐車場のバス完全予約制、観光バスの路上滞留対策等に取り組んでまいります。</p> <p>また、国の許可（道路運送法）を得ずに、一般のドライバーが自家用車を使って有償で乗客を送迎する違法行為である、いわゆる「白タク」問題につきましては、道路運送法の許可権限を持つ国を中心に、京都府警察、タクシー事業者、更には本市も連携して啓発を行い、違法性や危険性を周知する取組を行っているところです。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署及び関係機関に共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 市バスが混雑していると観光客を受け入れる気になれないため、市バスの混雑対策を進めてほしい。 コロナ禍以降、年々観光客が増えていると感じる。市バスの混雑がひどいため、解決は難しいと思うが、力を入れて取り組んでほしい。 観光特急バスの周知や、使いやすい価格設定等の工夫が必要。交通の円滑化なしに観光の質的向上は実現しないため、継続的な取組を期待する。 高齢者や要介護者がバスで座れない状況は危険である。バスの増便や、ヘルプマークの周知、優先席表示を外国人にも分かりやすく表示するなどに取り組んでもらいたい。 コロナ禍前に比べ市バスの利用客が減っている印象があり、京都市の様々な取組の効果を感じている。 	12	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「市バスの混雑対策」の具体的な取組として、観光特急バスの利用促進や、地下鉄をはじめとした鉄道を生かした移動経路の分散、市バス・地下鉄の臨時増発とお客様案内の充実に取り組むほか、令和7年度中には交通局ホームページにおいて市バス車内混雑度や走行位置をリアルタイムで発信する予定です。</p> <p>また、市バス車内への大型手荷物の持ち込み抑制の呼びかけや、市バス・地下鉄1日券のPR等の混雑対策に取り組むとともに、市バスを御利用いただく際のマナー啓発にも引き続き努めています。</p> <p>なお、市バスにおいては運転士等の扱い手不足が深刻化しており、路線・ダイヤの拡充は困難な状況にあります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共にするとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関内でリュックサックを下におろすなどマナーの啓発をしてほしい。 コロナ禍が明けてから地下鉄や京都駅の混雑が悪化している。旅行客の受け入れは限界を突破していると感じる。車内での荷物の持ち方などマナーを啓発してほしい。 	2	<p>交通局では、一人でも多くのお客様が座れるよう、荷物は膝の上などに置いていただく、リュックサック等は背負わず前で抱えるなど、混雑時において手荷物が周りの方へ迷惑とならないよう配慮いただくため、市バス、地下鉄の車内放送等で啓発を行っております。</p> <p>また、上記のほか、交通局、一般社団法人ツーリストシップ及び嵯峨美術大学の3者連携の下、市バス車内や地下鉄駅等に掲出している「ツーリストシップニュース」や、令和7年秋に実施した「旅先クイズ会」においても手荷物に関するこを取り上げるなど、啓発に努めております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共にするとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 市バスへの大型荷物の持ち込みが課題であり、優先的に取り組むべき。宿泊施設への配送や手荷物預かりサービスは、混雑緩和とともに観光客の利便性向上にもつながる。 市バスの混雑が市民生活に影響を与えているが、「手ぶら観光」を知っている人は少なく、今後の取組において重要である。 	3	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「手ぶら観光の推進」の具体的な取組として、手荷物の一次預かりや配送サービスのキャパシティの拡大、サービス提供窓口への適切な誘導等、更なる利用促進に向けた情報発信に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
6	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の混雑緩和のため、市から鉄道事業者への働きかけや、連携した対策を進めてほしい。 	1	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「京都駅一極集中の緩和」の具体的な取組として、デジタル広告による情報発信の強化や、関西圏における京都駅を経由しない入洛ルート等の情報発信の強化、鉄道事業者等と連携した情報発信などに取り組んでまいります。</p> <p>また、京都駅において、新橋上駅舎・自由通路の整備を推進することにより、駅ホーム及び南北自由通路等の混雑緩和を図ることや、山科駅の改良による特急はるかの延伸に伴い、山科駅から地下鉄等の利用を促進するなど、本市と西日本旅客鉄道(株)とが連携して、安全性や利便性の向上等にも取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> 観光マナー・モラルについて、京都だけでの対応ではなく、入国時、関西に入る時なども含めた対応が必要。 観光客のマナー違反、迷惑行為に対する具体的な対策、啓発を徹底してほしい。 初めて訪れる観光客が自然と京都のルールを理解できるよう、写真や動画を活用する等の工夫が必要である。 多くの外国人は日本の習慣を分かっていないだけであり、ごみを持ち帰ること等をイラストを使って説明すれば、多くの人が理解し、協力するのではないか。 マナー向上には、単なる注意喚起よりも文化理解を深める施策が有効である。 	30	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「観光マナーの啓発」の具体的な取組として、外国人観光客向けの公式サイトやSNSでの多言語によるマナー情報の発信等、旅マエ（京都観光前の段階）から旅ナカ（京都観光中）までの一貫したマナー啓発に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ごみのポイ捨てへの罰金、ティクアウト専門の飲食店やコンビニへのごみ箱設置の義務化、ごみ箱の増設や回収頻度の増加、ポイ捨て禁止の周知の対策を求める。 京都は全てが美しかったが、一部で溢れているごみ箱があった。京都は美しさの基準が非常に高いため、改善を願う。 観光関連事業者による課題への対応が重要であり、観光関連事業者が排出したごみは事業者が処理負担すべき。 観光地でのごみのポイ捨ては景観を損なうため、必要な場所にごみ箱を設置してほしい。 ごみの散乱を防ぐため、観光動線に沿ったごみ箱の再配置や多言語周知、観光事業者を巻き込んだ新たなごみ回収システムを検討してほしい。 	9	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「観光地における散乱ごみ対策」の具体的な取組として、ポイ捨て禁止の多言語啓発や、街頭ごみ容器の設置、ティクアウト商品等の販売事業者に対するごみ箱設置の要請、食べ歩き等に関する地域ルールの策定・徹底への協力など、地域・事業者と連携した多様な散乱ごみ対策により一層取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> 質の悪い民泊を規制してほしい。 マナーの悪い観光客ほど民泊を利用しがちである。民泊により市民生活に影響が出ており、規制すべきである。 細かいエリアごとの実態把握と、それに併せた民泊の規制を検討してほしい。 住まなくなった家を民泊に活用したいというニーズもあり得るため、民泊施設を一律に規制することはよくない。民泊事業者が地域に対して責任を持つことが大切であり、そのための規制を考えてもらいたい。 	7	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「違法・不適正な民泊施設をはじめ宿泊施設に対する指導」の具体的な取組として、民泊通報・相談窓口を設置し、無許可営業疑いの民泊に関する通報や苦情、相談等の対応を行っております。また、今後、民泊規制の在り方についても検討してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
10	<ul style="list-style-type: none"> ・観光業で生計を立てている市民も多い中、観光公害というイメージが浸透していることを残念に思う。 ・観光地が混雑するのは昔からのことであり、問題だと思わない。近年、観光公害が取り沙汰されるが、本当に問題が深刻化しているのかは疑問である。報道が過剰であると感じるため、京都の状況を正しく周知してほしい。 ・一部地域の問題をあたかも京都市全体の問題だと発信する報道姿勢には疑問に感じる。正しい情報発信を期待する。 ・東京は京都以上に混雑しているがオーバーツーリズムと言われない。なぜ京都ばかりがオーバーツーリズムと非難されるのか分からぬ。 ・京都の有名観光地は古くから多くの人でぎわっており、混雑していて当然である。混雑を専門的に取り上げることは京都にとって良くない。 	8	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に記載のとおり、様々な媒体を通じて、混雑等に関する正確な情報や、課題対策に関する情報を分かりやすく発信してまいります。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーツーリズムによる市民負担が増加しているため、多言語でのマナー周知や分散観光の推進が必要。観光が地域に与える影響を定期的に調査し、改善につなげる仕組みが重要である。 ・観光客を呼び込む施策ではなく、まずは市民が直面している課題の解決を優先すべき。 ・観光客と市民の相互理解は必要不可欠だが、一部の観光客のマナー違反や交通混雑が生じている中では、相互理解は進展しない。具体的な解決の方法が提示されることを期待する。 ・多くの観光客が京都を訪れることうを誇らしく思う。一方で、それにより不便を強いられている市民がいるのであれば、しっかりと対策をしてほしい。 ・日本人観光客のリピーターが減少していることは少し寂しい。京都は素晴らしい場所だが、混雑が京都の魅力を下げてしまっている点は勿体ない。 	13	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に記載のとおり、現状の課題を丁寧に把握するための実態調査に努めるとともに、より実効性のある対策となるよう取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光公害」という表現から、観光関連事業者が公害の原因であるかのような印象が広まっていることを悲しく思う。観光は重要な産業であるため、誤解を正し、事業者が安定して活動できる環境を整えてほしい。 	1	<p>「観光公害」という表現は、観光関連事業者・従事者等や観光客に、あたかも自らが公害の原因であるかのような印象を与える表現であり、適当でないと考えております。</p> <p>このため、本市では、一貫して「観光課題」という表現を用いることとしております。</p> <p>今後、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に記載のとおり、様々な媒体を通じて、混雑等に関する正確な情報や、課題対策に関する情報を分かりやすく発信してまいります。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> ・観光に対する市民の共感の輪の拡大に期待する。観光の効果の発信も大切だが、いかに直接的なメリットを感じられるかが肝要であり、市民が「暮らしが豊かになった」と実感できる取組を期待する。 ・市民優先価格や宿泊税の市民への還元など、市民満足度を高める取組は有効な施策である。観光の恩恵を地域全体へ公平に届ける仕組みこそが、観光都市としての成熟に不可欠である。 ・観光が市民に恩恵を与えているとは感じられないため、市民を思った観光施策を行ってほしい。市民が「宿泊税が増税されて良かった」と感じられる使途に宿泊税を活用してほしい。 ・市民の観光嫌いが加速しないよう、宿泊税を市民生活に還元し、観光が市民生活に与える恩恵をPRすることが大切。 ・宿泊税収入は、文化財の保全や公共交通の改善に使うことで、市民に「観光は京都を良くしている」と理解してもらうことが大切である。 	19	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「イ 観光に対する市民の共感の輪の拡大」に記載のとおり、市民が、観光が市民生活の豊かさにつながっていることを実感できるよう、全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等における「市民優先価格」の実現を目指し検討を進めるとともに、税率見直しを行う宿泊税を活用し、京都の魅力の向上や、市民・観光客双方の利便性向上、安心・安全の確保などに取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
14	<ul style="list-style-type: none"> 市民が京都の魅力を学習し、楽しむ機会をつくることで、観光客の気持ちを理解できるようになり、「市民生活と観光をつなぐ」ことになるのではないか。 現在の観光政策は、お金儲けのために市民生活が犠牲となっている気がする。市民がまちの資源を存分に知り、楽しみ、理解できて初めて、シビックプライドの向上、観光客や観光事業者への共感、敬意につながる。 将来、京都や京都観光を支える子供たちに京都の魅力や観光の重要性を教育することが、長期的に大切なことである。 寺社仏閣など、子供の頃から歴史や文化に触れる機会があるのは素晴らしいことだと思う。 	7	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「イ 観光に対する市民の共感の輪の拡大」に記載のとおり、次代を担う子供たちに向けた発信を強化とともに、市民が京都の魅力に触れる機会づくり等を進め、シビック・プライド（市民の地域に対する誇り）の向上に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> 伝統産業の担い手不足という課題もある。観光と基幹産業の双方がバランスよく人材を確保できる仕組みを整えることで、京都の文化と産業の持続的な発展が可能になる。 	1	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ウ 観光が京都にもたらす効果の最大化」に記載のとおり、観光関連事業者に対して京都の伝統産業品や京都産食材、地域産材の積極的な活用を促すとともに、幅広い産業や文化、文化財などに観光効果が波及していくよう取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> 「京都観光行動基準」（京都観光モラル）は素晴らしいアイデアである。観光客に狭い道路での写真撮影を控えるようお願いしたり、住民に観光客への支援を促したり、企業に地元工芸品や環境に配慮した取組を宣伝してもらったりするなど、身近な事例を取り入れることで、さらに効果的になるだろう。 「京都観光行動基準」（京都観光モラル）の分かりやすい実例を挙げることで、各者の理解が進むこととなるだろう。 「観光の質」においては、市民があたたかく観光客に接する姿勢が大切である。互いに思いやりの精神を持てるとよい。多くの京都市民が「京都観光は世界一だ」と胸を張ることを期待する。 観光客に京都のことを気遣った行動を求めるのは勿論だが、対立ではなく、お互いさまの精神で配慮しあうことが大切である。 	6	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「エ 京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくり」に記載のとおり、「持続可能な観光」の基盤になる取組として、観光関連事業者・従事者等による地域と調和した事業活動や、観光客による地域を思いやった行動、市民による「旅行者をあたたかくむかえる」等の「京都市民憲章」の実践など、引き続き、「京都観光行動基準」（京都観光モラル）の普及啓発を進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> 京都の魅力である文化体験やおもてなしを、観光客やMICE参加者に正しく伝えるための工夫を強化してほしい。 安っぽい日本風グッズは京都の気品を損なうことにつながる。質の向上のため、京都の文化を正しく継承していく努力が必要だと思う。 見た目でだけで外国人、観光客、市民と分けず、誰に対しても本当のおもてなし、本物の京都を紹介するまちでいてほしい。 一部の観光地や店舗において、外国人という理由で冷たい態度を取られた。京都は国際的な観光都市だからこそ、訪れる全ての人に対して丁寧で敬意のある対応が求められる。 食文化や地域性を無視した利益優先の飲食店が増加し、京都の価値を下げている。 	8	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「エ 京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくり」に記載のとおり、「持続可能な観光」の基盤になる取組として、観光関連事業者・従事者等による京都ならではの質の高いサービスの提供の促進など、引き続き、「京都観光行動基準」（京都観光モラル）の普及啓発を進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> 迷惑行為に対する受け入れや理解にも受容限度がある。地元住民として、観光客には素晴らしい旅行体験をしてほしいが、訪れる場所や人へのリスペクトも忘れてほしくない。 観光客に対し一方的にマナーを求めるのではなく、市民生活への配慮を促す柔らかなメッセージを発信するなど、観光客が市民に感謝や敬意を示せるような仕掛けがあるとよい。 観光客が自然にルールを理解できるサイン整備など、地域の日常を尊重しながら滞在できる仕組みを整えることで、地域文化の理解・交流が深まる。 	5	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」において「観光マナーの啓発」に取り組むとともに、同プロジェクト中「エ 京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくり」に記載のとおり、「持続可能な観光」の基盤になる取組として、観光客による地域を思いやった行動など、引き続き、「京都観光行動基準」（京都観光モラル）の普及啓発を進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
19	<ul style="list-style-type: none"> オーバーツーリズムというイメージが浸透し、外国人＝悪と捉える風潮を残念に思う。観光は国際理解を深める貴重な機会であり、外国人と市民が直接会話をできる機会があると良い。 観光客の増加は京都にとって望ましいことであり、「国際平和」は直接の交流によって生まれるものである。立場の異なる者同士が、気持ちよく過ごせる京都を期待する。 市民と観光客双方の理解を深めるため、交流イベントを開催してはどうか。 観光の醍醐味は住民との交流である。市民と観光客が交流できる場づくりの支援が必要である。 観光客と市民の調和のため、案内や翻訳、マナー啓発、清掃などに携わるボランティアの募集と育成を図ってほしい。 	12	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「エ 京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくり」に記載のとおり、「持続可能な観光」の基盤になる取組として、地域団体による清掃活動等のボランティア活動の促進、市民による「京都市市民憲章」の実践、観光客との交流の促進など、引き続き、「京都観光行動基準」（京都観光モラル）の普及啓発を進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
20	<ul style="list-style-type: none"> 観光関連事業者・従事者等、観光客、市民の三者が尊重しあう関係とは何か。市民だけが我慢しているように感じるため、市民を大切に、暮らしやすいまちにしてほしい。 	1	<p>三者が尊重しあう関係とは、観光関連事業者・従事者等においては「地域との調和、景観や環境への配慮、京都ならではの質の高いサービスの提供等」、観光客においては「地域への配慮、文化や環境を大切に行動し、京都の魅力を学び楽しむこと等」、市民においては「京都の歴史や文化を好きになる、地域の暮らしや景観・環境を大切にする、観光客をあたたかく迎える等」の、各者が「京都観光行動基準」（京都観光モラル）を実践しあう関係を想定したものです。</p> <p>具体的には、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「エ 京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくり」に記載のとおり、「持続可能な観光」の基盤になる取組として、観光関連事業者・従事者等による地域と調和した事業活動や、観光客による地域を思いやった行動など、引き続き、「京都観光行動基準」（京都観光モラル）の普及啓発を進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> 市民生活と観光の調和とはどのあたりが調和なのか分からぬいため、具体的な対策を載せてほしい。 	1	<p>市民生活と調和した観光・MICEの実現に向けて、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」において、観光課題対策の強化や、観光に対する市民の共感の輪の拡大、観光が京都にもたらす効果の最大化、京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくりに取り組んでまいります。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 例えば陶芸体験場がたくさんある地域を作るなど、目で見て楽しむ観光地と、体験をして楽しむ場所を分けてはどうか。目的を分散させることで混雑対策につながると思う。 	1	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「観光の時期・時間・場所の3つの分散」の具体的な取組として、「京の冬の旅」「京の夏の旅」の催行や、朝・夜観光等コンテンツ造成、市内の多様なエリアの魅力を発信する「とっておきの京都プロジェクト」や府市連携による周遊観光「まるっと京都」の展開等に取り組んでまいります。</p> <p>とりわけ令和6年度から、新たに京都市内の観光地情報や混雑状況のリアルタイム発信、手ぶら観光サービス窓口やトイレ、ごみ箱等の情報を一元的に発信する京都観光デジタルマップ（京スマ）を配信しているところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型車両の乗降場所の制限や交通誘導、通学時間帯における一方通行規制など、観光バスやタクシーの運行に係る規制を強化してほしい。 ・ 一番大きな影響は交通混雑。運転手不足により増便も難しいことから、鉄道空白地域を通る路面電車（次世代LRT）の導入を提言する。 ・ 清水寺・東山周辺の道路の混雑により観光客の安全だけでなく住民生活にも影響が出ている。曜日に関係なく許可車両以外の一般自動車の乗り入れ禁止を検討してほしい。 ・ トランジットモール化や歩行者天国化、観光バスの規制など、入洛する自動車への規制や負担を求め、歩いて観光する街にするべき。 ・ 公共交通機関の混雑、渋滞による遅れは京都観光の生命線と言える修学旅行への影響が出る恐がある。LRT導入や、主要幹線道路の一方通行化など抜本的な混雑対策が必要である。 	15	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「道路の混雑対策」の具体的な取組として、パークアンドライドの推進や、清水坂観光駐車場のバス完全予約制、観光バスの路上滞留対策等に取り組んでまいります。</p> <p>本市では、市民生活を支える交通手段の維持・確保、都市の未来を見据えた公共交通の利便性・快適性の向上に向けて、新たな技術や多様なモビリティの活用等の取組を推進することとしており、いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市バス等の混雑対策として、市民等に市バス・地下鉄のフリーパスを安価で販売してはどうか。市内交通を熟知した市民であれば、市バスや地下鉄を乗り継いでスムーズな移動を選択することができ、市バス混雑が緩和できると思う。 ・ バスの混雑や遅延が市民生活にとって一番の問題であると感じる。運転手不足の問題はあるだろうが、特に通勤時間帯は市民・観光客が十分に乗れるくらいのバスを確保してほしい。 ・ 市バスの混雑対策や利便性向上策として、前払い制度の導入や、京都駅前バス乗り場から乗車する場合における大型荷物の持ち込みの禁止、一日乗車券の購入方法・公共交通機関の決済方法の分かりやすい周知が必要である。 	4	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「市バスの混雑対策」の具体的な取組として、観光特急バスの利用促進や、地下鉄をはじめとした鉄道を生かした移動経路の分散、市バス・地下鉄の臨時増発とお客様案内の充実等に取り組んでまいります。</p> <p>市バス運転士の担い手不足をはじめ、引き続き厳しい経営状況ではありますが、いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市バス等の市民優先価格は何が目的の政策か分からぬ。市民は、混雑対策を講じてもらいたいのであって、安く乗車したい訳ではない。 ・ 市民優先価格を導入すると、日本人観光客のリピーターの減少につながるのではないか。リピーターが逃げない仕組みを構築すべきである。 ・ 市バスの混雑問題について、市外在住の通勤・通学者にも配慮してほしい。生活上必要があるためバスに乗っているのに、観光客と同じ扱いを受けるのは困る。 ・ 市バス等の市民優先価格は、市外在住の通勤・通学者に適用されるのか、また、そもそも混雑緩和につながるのか疑問である。市バスの本数の増加や観光地を避けたルートでの運行を検討する方が混雑緩和につながるのではないか。 	6	<p>市民優先価格は、市民の運賃を、観光客を含む市民以外の運賃よりも割安にするもので、市民に、観光が市民生活の豊かさにつながることを実感していただくことで、観光客と共に存する機運の醸成につなげ、市民と観光客双方の満足度を向上させ、国際文化観光都市としての魅力を高めることを目的としております。周辺自治体にお住まいでの、通勤・通学等で日常的に市バスを御利用いただいている方の運賃設定につきましては、一定の配慮を検討したいと考えております。</p> <p>市バス運転士の担い手不足をはじめ、引き続き厳しい経営状況ではありますが、いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
5	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客向けのバスを毎日運行してほしい。 ・通勤時間帯に市バスが満員で乗れないことがあるため、観光客専用バスの導入や、市民専用の時間帯や車両を設けるなど、市民生活を優先する対策を実行してほしい。 ・京都の魅力が世界に高く評価される一方で、市バス等の混雑による市民生活への影響は無視できない。増便や市民専用バスの運行など、市民生活を守る対策を進めてほしい。 ・観光特急バスの運行が実施されているが、遅延が発生し、利用客も多くない。観光特急バスの周知活動の他、市民と観光客の車両や運賃の明確な区別を検討すべき。 ・市バスの混雑対策として「京都市住民優先バス」を導入してはどうか。車両の区別や周知を徹底し、市民生活と観光が共生できるモデルケースとなることを期待する。 	9	<p>市バスは、どなたでも御利用いただける乗合バスとして運行しており、道路運送法上、市民のみ、観光客のみといった特定のお客様に限定したバスの運行はできません。そこで、市民と観光客の御利用の棲み分けを図るため、国との協議の下で運賃制度を改正し、一般系統とは異なる運賃設定（一般系統230円に対して500円）のもと、観光地最寄りの停留所のみに停車する「観光特急バス」の運行を全国で初めて令和6年6月に開始したところです。</p> <p>引き続き、「観光特急バス」のPRに積極的に取り組み、一人でも多くのお客様に御利用いただくことで、一般系統の混雑緩和を図り、より快適に市バスを御利用いただけるよう努めてまいります。</p> <p>市バス運転士の扱い手不足をはじめ、引き続き厳しい経営状況ではありますが、いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・市バスへの大型荷物の持ち込み規制を徹底し、タクシー利用への誘導や超過料金を徴収する仕組みを作ってほしい。 ・公共交通機関における大型荷物の持ち込みは市民生活にとって大きな負担となっているため、市バス車内的一角に手荷物置場を作るなど、早急な対策が必要である。 ・バスへ持ち込める手荷物を制限してはどうか。 	4	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「手ぶら観光の推進」の具体的な取組として、手荷物の一次預かりや配送サービスのキャパシティの拡大や、サービス提供窓口への適切な誘導等、更なる利用促進に向けた情報発信に取り組んでまいります。</p> <p>なお、大型手荷物の持込制限を実施するには、運転士が乗客一人一人の手荷物を確認する必要があるなど、ワンマン運転で運行している市バスでは運用面で非常に難しい課題があることから、実施は困難であると考えております。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・京都駅の混雑緩和対策として、特急サンダーバードを山科駅に停車させ、地下鉄東西線への誘導を図り、観光・ビジネス客の流れを分散させる施策を講じてはどうか。 ・平安神宮や京大病院・府立病院、府庁等へのアクセス改善のため、京阪神宮丸太町駅に特急や快速急行を停車させ、鉄道の利便性を高めることで、混雑する市バスからの利用転換を促してはどうか。 	3	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「京都駅一極集中の緩和」の具体的な取組として、デジタル広告による情報発信の強化や、関西圏における京都駅を経由しない入浴ルート等の情報発信の強化、鉄道事業者等と連携した情報発信などに取り組んでまいります。</p> <p>また、京都駅において、新橋上駅舎・自由通路の整備を推進することにより、駅ホーム及び南北自由通路等の混雑緩和を図ることや、山科駅の改良による特急はるかの延伸に伴い、山科駅から地下鉄等の利用を促進するなど、本市と西日本旅客鉄道(株)とが連携して、安全性や利便性の向上等にも取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音などが日常生活に支障をきたしているため、注意喚起や巡回監視、音量制限や夜間の騒音許容量に係る罰則を条例化することを望む。 ・観光客のマナーの悪さに大変迷惑している。シンガポールのような罰則が必要である。 ・プロモーションによる行動変容は限界があるため、罰則等により義務的に規律を促す必要がある。 ・観光マナーを紹介するマニュアルを多言語で用意し、京都のホテルを予約した外国人観光客に送付するとともに、政府と連携し、入国時に一読することを義務付けてはどうか。 ・ルールを守る外国人観光客のためにも、日本人・外国人問わず、ルールを守らない観光客に対する取締りや罰金化等を厳しくしてもらいたい。 	13	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「観光マナーの啓発」の具体的な取組として、外国人観光客向けの公式サイトやSNSでの多言語によるマナー情報の発信等、旅マエ（京都観光前の段階）から旅ナカ（京都観光中）までの一貫したマナー啓発に取り組んでまいります。</p> <p>とりわけ迷惑行為や私有地への無断立ち入り、器物損壊等の悪質なマナー違反は、既存の法令に抵触する行為に当たります。当該違法行為も含め、まずは日本のルールをしっかりと知っていただくため、JNTO（日本政府観光局）や京都府警察とも連携し、啓発に努めているところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
9	<ul style="list-style-type: none"> 食べ歩きが多い場所でのごみの散乱が見られるため、ごみ箱の増設をしてはどうか。 観光客に、ごみ排出量の削減やごみ処理の負担をしてほしい。 	2	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「観光地における散乱ごみ対策」の具体的な取組として、ポイ捨て禁止の多言語啓発や、街頭ごみ容器の設置、テイクアウト商品等の販売事業者に対するごみ箱設置の要請、食べ歩き等に関する地域ルールの策定・徹底への協力など、地域・事業者と連携した多様な散乱ごみ対策により一層取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ごみ捨て等のルールを守らない民泊事業者への罰則を強化すべき。 	1	<p>いわゆる民泊を含めた宿泊施設で出たごみは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、事業者の責任で適正に処理する必要があり、法令に反する場合は5年以下の懲役若しくは1,000万円以下（法人の場合は3億円以下）の罰金又はその両方が科せられることとなります。本市では、宿泊施設を運営又は運営を予定している事業者に対し、当該罰則規定も含め、正しいごみ処理の徹底を啓発しているところです。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ごみを道端に捨てる民泊宿泊者がいるが、結果として地域住民が掃除を行わざるを得ない状況にある。民泊への課税を強化し、地域の清掃や環境整備に還元する仕組みづくり、清掃義務の徹底、利用者への指導の義務付けなどの対応をすべき。 	1	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に掲げる「違法・不適正な民泊施設をはじめ宿泊施設に対する指導」の具体的な取組として、民泊通報・相談窓口を設置し、無許可営業疑いの民泊に関する通報や苦情、相談等の対応を行っており、宿泊施設に対する必要な指導等につなげております。また、今後、民泊規制の在り方についても検討してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> 寺社を訪れる人で混雑しているため、行政だけで取り組むのではなく、朝・夜拝観や人数制限など寺社にしかできない取組をやってもらうべき。 京都の貴重な文化財を守り続けるためには拝観料が安すぎる感じた。 観光施設の料金を外国人は2倍にしてほしい。 現状の拝観料・入場料などはインバウンドには安すぎるため、値上げし、日本人には安く提供すべきである。特に子供料金は無料とすべきである。 観光施設における観光客価格の導入について検討してほしい。 	12	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に記載のとおり、産学官・地域と連携し、観光課題対策をより一層強化していくこととしております。寺社や観光施設等の入場料や人数制限等は、各施設の設置趣旨等を踏まえ、所有者において判断するものと考えておりますが、いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> 外国人が増えすぎることで日本人の京都離れが加速している。全ての外国人観光客にマナーを周知することは難しく、京都のような日本を代表する観光地がオーバーツーリズムを克服するのは無理なのではないか。 観光客の生活空間への侵入を防ぐため、観光ルートの設計や案内の改善など、地域ごとの課題に合わせた標識整備やゾーニングを進めるべきである。 観光客向けシャトルバスの活用や、路地への立入制限など、観光客と市民の導線の分離を検討してはどうか。 オーバーツーリズムが過去と比較して衰退している都市で生じているのは、市民と観光客の所得水準が逆転しているからである。公共投資により市民の所得を押し上げるべき。 観光と市民生活の場所と時間を切り分けて、せめて朝夕夜は穏やかな生活ができるよう計画してほしい。 	8	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に記載のとおり、現状の課題を丁寧に把握するための実態調査に努めるとともに、より実効性のある対策となるよう取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
14	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の受入人数のコントロールなどの抜本的な対策を検討すべき。 ・主要観光スポットの入り口に閑所を設け、人数制限を行うとともに、売上げを地域に還元し、ごみ処理や運営費などに充てる取組を検討できないか。 ・京都は地下鉄等の鉄道インフラが整っておらず、現状のインフラで課題を解決するには受入人数をコントロールするしかない。 ・観光公害の是正のため、観光客の受入制限が必要である。 ・想定する観光客の人数によって課題や必要な対策が異なるため、日本人、外国人それぞれの想定人数の設定が必要である。併せて、季節ごとの想定人数も示すべき。 	14	<p>混雑の状況は、時期・時間・場所によって様々に異なること、また、市内には、現在も観光客の更なる来訪を望まれるエリアも存在することから、市全体を一まとめに捉え、一律で理想的なキャパシティを議論することはできないものと認識しております。</p> <p>また、エリアを絞っての議論についても、市民や観光関連事業者・従事者等、様々な立場の関係者の合意の下で、種々の前提条件を設定した上での検討となること、検討の如何にかかわらず、現行法令上、公道上において人数制限を行うことは出来ないことなど、様々な課題があるものと考えておりますが、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に記載のとおり、現状の課題を丁寧に把握するための実態調査に努めるとともに、より実効性のある対策となるよう取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールのような罰則や、インバウンドへの二重価格の設定等が打てるよう、独自の権限、基金などを準備して手を打つべき。 ・二条城などにおいて二重価格を導入すべき。 	2	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ア 観光課題対策の強化」に記載のとおり、より実効性のある対策となるよう取り組んでまいります。</p> <p>また、同プロジェクト中「イ 観光に対する市民の共感の輪の拡大」に記載のとおり、全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等における「市民優先価格」の実現を目指し検討を進めているところです。その上で、二条城をはじめとする公共施設の使用料への拡張については、各施設の特性や利用状況を踏まえ、今後、検討してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・行政として宿泊施設の適正数量についてどのように考えているのか。宿泊施設の出店規制の強化を検討すべき。 ・民泊だけでなく宿泊施設の新設を規制してほしい。 ・観光公害の是正のため、ホテルの出店規制（山科、伏見等の周辺地域を除く）が必要である。 	5	<p>宿泊施設については、数だけの観点でいえば、基本的に満たされている状況にあると考えております。</p> <p>また、宿泊施設数の規制については、価格高騰やサービス低下等の弊害の懸念があると考えております。本市としては、一律に施設数に規制を掛ける「総量規制」ではなく、既存施設・新規施設ともに、市民、観光客に受け入れられる質の高い宿泊環境を整える取組を、引き続き推進してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル用地があるなら公園を作ってもらいたい。市有地も、売却せずに公園にしてほしい。 	1	<p>公園の整備について多数の御要望をいただく一方で、京都市建設局が管理する公園は施設の老朽化が進んでいることから、現在は既存の公園の更新等を優先して行っており、公園の新設は困難な状況です。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> ・「オーバーツーリズム」という単語をあえて使用しないのはなぜか。 ・「オーバーツーリズム」「観光公害」という単語が出てこないが、オーバーツーリズム、観光公害であるというスタンスを明確に書くべき。 	2	<p>混雑の状況は、時期・時間・場所によって様々に異なり、また、現在も観光客の更なる来訪を望まれるエリアもあります。また、「観光公害」という表現は、観光関連事業者・従事者等や観光客に、あたかも自らが公害の原因であるかのような印象を与える表現であり、適当でないと考えております。</p> <p>このため、本市では、一貫して「観光課題」という表現を用いることとしております。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
19	<ul style="list-style-type: none"> オーバーツーリズム対策として、「京都マラソン」等の集客力のあるイベントの終了などの対策を求める。 	1	<p>例えば「京都マラソン」は、市民スポーツの振興等を目的とした事業であり、当該事業が観光課題が顕在化しているエリアの混雑を助長しているものとは認識しておりません。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
20	<ul style="list-style-type: none"> 観光客に限らず、まちなかで喫煙が多くみられるという話を聞く。喫煙スペースが限られていると、外で隠れて吸うということにつながるため、観光地の周辺などに喫煙スペースを増設してほしい。 観光地での吸い殻のポイ捨ては火災の危険があるため、必要な場所に喫煙所を設置してほしい。 	2	<p>喫煙場所の増設については、設置場所の調整や設置費用及び維持管理費用の確保、さらに、設置場所の近隣の方々の理解が得られるか等の課題があるため、慎重に検討しているところです。今後も路上喫煙対策として、市民・観光客等問わず市内全域での周知啓発に努めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> マナー違反には一般市民も含まれる。路上喫煙やタバコのポイ捨てをよく見かけるため、罰則制度を周知し、取締りや罰金徴収を強化すべき。 	1	<p>本市では「京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例」を制定し、特に人通りが多く、やけど等の危険性が高い地域であり、かつ、広報・啓発効果の高い「市内中心部」、「京都駅地域」及び「清水・祇園地域」を路上喫煙等対策強化区域（過料徴収区域）に指定するとともに、市内全域で道路等の屋外の公共の場所では路上喫煙をしないよう、喫煙者に対して努力義務を課して、市内全域での喫煙マナーの向上を図っております。</p> <p>また、路上喫煙対策に加え、「京都市美化の推進及び飲料容器に係る資源の有効利用の促進に関する条例」に定めるごみのポイ捨てに対する罰則規定の積極的な啓発・警告や、地域・事業者と連携した美化活動等により、ポイ捨てが生じにくい環境づくりに取り組んでいるところです。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
22	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設の開業前に、事業者に対して廃棄物の処理方法を行政から説明を行い、説明を受けない場合は営業を許可しない等の対策をしてはどうか。 	1	<p>現状、事業者が宿泊施設を営業する際には、施設において生じる廃棄物の処理方法について京都市に報告することを義務付けております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
23	<ul style="list-style-type: none"> 祇園祭におけるマナー啓発や清掃体制の強化等、安全・快適な環境の維持に取り組んでほしい。特に、来訪者数のコントロール等も含めた議論が必要である。 	1	<p>祇園祭の宵山期間においては、祇園祭山鉾連合会や京都府警察、交通事業者等との連携の下、来訪者の案内誘導や、GPS連動のデジタルマップ「祇園祭宵山ガイド」の作成・周知に取り組むとともに、混雑するエリアにライブカメラを設置し、混雑状況をリアルタイムで配信しております。</p> <p>また、多くのボランティアスタッフの御協力の下、「祇園祭ごみゼロ大作戦」を実施し、ごみの減量と散乱ごみの防止にも取り組んでおります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
24	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊税を大幅に増税することで、各国の富裕層が観光するようになり、外国人観光客の問題の半数程度は解決できる。 	1	<p>宿泊税は、国際文化観光都市としての魅力を高め、及び観光の振興を図る施策を推進するための目的税であり、平成30年度から導入し、令和8年3月から税率の見直しを行うこととしております。特定層の誘客を目的に課税しているものではありませんが、宿泊税収入は、観光・MICEの振興や、観光課題への対策はもとより、文化芸術の振興、歴史的・伝統的な町並み景観や自然景観の保全、社会インフラの機能強化等の利便性向上や安心・安全の確保など、市民・観光客双方の満足度を高めるための施策にも活用してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
25	<ul style="list-style-type: none"> JR奈良線の稻荷駅など、混雑により観光客が歩道から車道にはみ出す危険な状況が多発しており、嵐山の長辻通で取り組まれているような歩行者専用道路規制や、ガードレールの設置等を行ってはどうか。 	1	<p>JR奈良線の稻荷駅では、西日本旅客鉄道(株)が新設する西側改札開設と連携し、本市において接続道路を整備することにより、稻荷駅及び近接する踏切道の混雑解消を図ることを予定しております。</p> <p>なお、ガードレールで物理的に区切るということも有効的な考えではありますが、多くの場所で道路幅が狭く、ガードレールを設置すると「有効幅員（車が通れる幅、歩行者や車いす等が通れる幅）」がさらに狭くなってしまうことや、緊急車両の通行に支障をきたす場所があるなどの理由から設置が困難な場合があります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
26	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊税収を分かりやすい形で市民へ還元してほしい。その際、市内で従事する市外在住者にも恩恵が行き渡るよう配慮してもらいたい。 観光業に重点を置くのであれば、観光税を高くし、市民税を抑えるとともに、課税世帯の市民を対象に寺社の無料バスを発行するなど、市民生活が最優先されるような政策を講じてほしい。 	3	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「イ 観光に対する市民の共感の輪の拡大」に記載のとおり、市民が、観光が市民生活の豊かさにつながっていることを実感できるよう、市バス等における「市民優先価格」を実現するとともに、令和8年3月から税率の見直しを行う宿泊税を活用し、京都の魅力の向上や、市民・観光客双方の利便性向上、安心・安全の確保などに取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
27	<ul style="list-style-type: none"> 京都市にお金が入らないと意味がない。インバウンドから外資にお金が流れるだけでは中小企業は育たないため、MICE施設の近辺に国内資本の宿泊施設を誘致するなど、ミクロな視点で政策を進めてもらいたい。 	1	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ウ 観光が京都にもたらす効果の最大化」に記載のとおり、幅広い産業や文化、文化財などに観光効果が波及していくよう取り組んでまいります。</p> <p>なお、宿泊施設については、数だけの観点でいえば、基本的に満たされている状況にあると考えており、既存施設・新規施設とともに、市民、観光客に受け入れられる質の高い宿泊環境を整える取組を、引き続き推進してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>
28	<ul style="list-style-type: none"> 「京都観光モラル」の実践の場として、食を通じた自然なマナー啓発や、地方誘客と将来への種まき、市民と観光客の交流を目的とした「食と文化の交流フェス」の開催を提案する。 	1	<p>「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「エ 京都観光に関わる三者がお互いに尊重しあう関係づくり」に記載のとおり、「持続可能な観光」の基盤になる取組として、観光客と市民との相互交流交流など、引き続き、「京都観光行動基準」（京都観光モラル）の普及啓発を進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
29	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の増加により、市内の滞在人数も増え、犯罪やトラブルの増加につながるため、警察官の増員を要望してほしい。 	1	<p>いただいた御意見は、関係部署や関係機関に共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>

第4章 暮らすように旅をつむぐプロジェクト（「多様で奥深い京都の本質」の追求）

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・新しいトレイルコースの整備をしてほしい。	1	トレイルコースについては、令和9年秋を目途に、京都一周トレイルの新たなコースを整備することを予定しており、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ア 多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ」に、その旨を明記しました。

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・京都には多くの魅力があることをPRしてほしい。 ・伝統工芸体験や季節のイベント情報など、有名スポット以外にも京都の魅力が際立つツアーやアクティビティが増えるとよい。 ・国際観光都市として発展していくためには、単に観光客数を制御するだけでなく、京都の文化や歴史を短時間で理解できるコンテンツ開発、若者向け文化体験プログラムなど、京都の魅力をより深く理解してもらえる取組が不可欠である。 ・観光の本質は「文化との出会い」である。職人の技や坐禅など、言葉の壁を越えてその魅力を体感できるプログラムを増やすべき。 ・単なる消費ではなく、深い文化体験や交流を伴う質の高い観光を目指すべき。長期滞在やリピーターを増やし、京都への理解と愛着を深めることで、地域経済の安定につながる。 	13	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ア 多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ」に記載のとおり、寺社や歴史・文化などの京都観光の定番の観光体験のみならず、川などの都会の中に息づく自然や、トレイル・サイクリングなどのアクティビティ、コンテンツ産業等の現代的な魅力にも焦点を当てた新たな魅力の掘り起こしに取り組んでまいります。また、京都の魅力の担い手（学藝の担い手）との交流など、より深い観光体験の創出・磨き上げにも取り組んでまいります。</p> <p>推進に当たっては、朝・夜における観光体験の創出や、閑散期におけるイベントの催行など、観光の分散につながる視点で取り組みます。</p> <p>また、京都ファンに対して京都の魅力を調査することで、「多様で奥深い京都の本質」を追求してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県と連携した観光振興に期待する。 ・市内の周辺部や市外にも魅力ある場所が多く存在するため、観光客の分散にさらに力を入れてほしい。 ・宇治市や亀岡市、大津市と連携した広域観光に取り組んでほしい。 ・「暮らすように旅する」というキーワードがよい。少数で良いので定番観光地ではない本当の京都の魅力をゆったり味わってもらう取組があるとよい。 ・混雑していないエリアの要因を分析し、各エリアへの分散に取り組んでほしい。 	15	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「イ 多様なエリアにおける観光振興、府市連携等による広域周遊の促進」に記載のとおり、地域の団体・事業者等と共に、混雑が比較的発生していない市内の多様なエリアにおける観光体験の創出や、京都府や近隣自治体等と連携した広域観光の促進などに取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米富裕層をターゲットとして、1週間程度の滞在で京料理、清水焼、西陣織等のより深い体験ができるようなスタイルへの転換が必要ではないか。 ・質の高い観光客を呼び込むべき。 	3	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ウ 高付加価値な観光の推進」に記載のとおり、京都ならではの特別な観光体験の創出・磨き上げに取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊業は維持管理や設備更新に多額の経費がかかり、人材も集まりにくい。日本人向けにサービスを行ってきた古い旅館はインバンド対応も容易にはできない。宿泊税は旅館など観光関連事業者への支援に活用してほしい。 ・日本文化が凝縮された旅館の魅力をSNSを通してアピールし、宿泊観光の促進を図ってほしい。 	2	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「エ 宿泊観光の促進」に記載のとおり、伝統産業製品や地元食材の利用促進等による宿泊施設の魅力向上、旅館の魅力発信等に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の京都離れは深刻な問題であり、対策が必要である。 ・修学旅行の京都離れは深刻な問題であり、各業界からもヒアリングの上、危機感を持つべき。 ・修学旅行生の京都離れは将来のリピーター喪失につながる大きな問題であるため、修学旅行先が人気スポットに偏らないよう、提案力の強化や文化体験等のプログラムの充実を願う。 	5	<p>第2章「6 課題」に記載のとおり、一部の学校で修学旅行先を京都から他の方面に変更する動きが見られることは重要な課題であると認識しております。</p> <p>今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「オ 修学旅行・教育旅行誘致の強化」に記載のとおり、旅行事業者への聞き取り等を通じて全国の修学旅行の動向を把握した上で、修学旅行誘致活動等の強化に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
6	<ul style="list-style-type: none"> 観光によって不便を感じることはないものの、人口減少によって地域コミュニティが薄れていくことは課題である。観光客が来ることを、地域の力に変えるための策が必要である。 	1	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「多様な滞在の促進等による関係人口の創出・拡大」に記載のとおり、いわゆる「観光」的な滞在にとどまらず、滞在中にアートからビジネスまで幅広い分野で創作やクリエイティブな活動を行ふ方の受入体制づくりを進めるなど、多様な滞在の在り方・関わり方を提案・促進することで、地域とのつながり・交流のきっかけづくりを進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> 日本人観光客を大切にしていかなければならない。日本人に向けた取組があれば、計画に位置付け、しっかりと取り組んでもらいたい。 京都の文化を守り将来への継承につなげるためには、日本人こそ京都の魅力を再認識すべきであり、日本人観光客が戻ってくるための取組を行ってもらいたい。また、日本人観光客が京都にお金を落とすための施策も考えるべきである。 インバウンドは世界情勢の影響を受けやすく不安定であるため、継続して日本人を呼び込み、足腰の強い観光を育てるべき。 外国人観光客は外的要因に左右されるため、ベースとして日本人観光客を確保することが重要。特にリピートする京都ファンが離れないよう、体験型コンテンツの充実等が必要である。 	6	<p>第3章「2 目指す姿の実現に向けて」に記載のとおり、日本人観光客は「京都ファン」の中心的存在であり、かけがえのないパートナーであると考えております。</p> <p>その上で、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」に掲げる各種施策は、外国人観光客も大切な存在であるとの認識の下、原則、日本人・外国人を区別せず記載しております。国内／国外の別も含め、各種事業の対象となる国・地域等については、最新の観光動向等を踏まえ、事業の企画・立案の際に個別に精査を行い、事業を実施してまいります。</p> <p>今後、同プロジェクトを推進し、観光客の満足度や消費単価の向上を図るとともに、京都の魅力の維持・継承、さらなる魅力の創出につなげてまいります。</p> <p>なお、現時点では、全国的な動向として、国内旅行市場が長期的に伸び悩んでいるといった課題はあるものの、全国と比較して京都市の日本人観光客数が減少傾向にあるといった統計データはございません。他方、京都への旅行を控えるような声や、日本人観光客の減少を肌で感じているといった観光関連事業者の声も聞いており、引き続き、動向を注視してまいります。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> 観光消費額の増加を目指すべき。 観光による消費額や雇用、税収の増加につながる取組を期待する。 	3	<p>今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「『多様で奥深い京都の本質』の追求」及び「観光関連産業の活性化・従事者の活躍促進」等を通して、観光消費額の増加を図るとともに、雇用の創出、税収の増加等につなげてまいります。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客は放っておいても来るため、日本人や修学旅行生が来たくなる観光政策を考えてほしい。 	1	<p>第2章「6 課題」に記載のとおり、国内旅行市場の長期的な伸び悩みについては重要な課題であると認識しております。</p> <p>今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」に掲げる各施策を推進し、修学旅行生を含む日本人観光客の誘客に取り組んでまいります。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> 「暮らすように旅をつむぐ」という発想は素晴らしい。あまり知られていないスポットや観光体験をプロモーションすることは、混雑緩和だけでなく、観光客が本物の京都とつながるきっかけにもなる。 	1	<p>今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」において、「多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ」、「多様なエリアにおける観光振興、府市連携等による広域周遊の促進」等に取り組み、観光客が京都の本質に触れ、堪能することで、何度も訪れたくなる、長く滞在したくなる、さらには住みたくなるような京都観光を推進してまいります。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> 京都は人気コンテンツ以外に光が当たりづらいため、人気コンテンツに関連付けて販売するか、訴求力のある媒体でのPR、観光客が求めるコンテンツの分析及び旅行会社との共有が必要である。 	1	<p>今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」において、「多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ」、「多様なエリアにおける観光振興、府市連携等による広域周遊の促進」等とともに、「戦略的な情報発信」を推進してまいります。事業の実施に当たっては、観光関連事業者をはじめ各主体ともしっかりと連携を図り、取組を推進してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い文化体験を提供し、市民や職人、観光客への恩恵につなげるため、地域のイベント主催者への補助金の拡充を検討してほしい。 京都はナイトトレジャーが貧弱であり、深夜まで営業する健全で高品質な施設が増えるよう投資すべき。 	2	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ア 多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ」に記載のとおり、寺社や歴史・文化などの京都観光の定番の観光体験のみならず、川などの都会の中に息づく自然や、トレイル・サイクリングなどのアクティビティ、コンテンツ産業等の現代的な魅力にも焦点を当てた新たな魅力の掘り起こしに取り組んでまいります。また、京都の魅力の担い手（学芸の担い手）との交流など、より深い観光体験の創出・磨き上げにも取り組んでまいります。</p> <p>推進に当たっては、朝・夜における観光体験の創出や、閑散期におけるイベントの催行など、観光の分散につながる視点で取り組みます。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 京都一周トレイルにおいて、QRコードや看板による位置情報・周辺施設情報・緊急連絡先等の情報提供や、滑りやすい場所等の足下整備や土砂崩れ防止対策、マナー啓発等の取組を行ってほしい。 トレイルコースの利用者が増えている印象があり嬉しいが、山中でのごみのポイ捨てが見られるため、マナー掲示してほしい。 	2	<p>「京都一周トレイル」については、京都一周トレイルホームページ及びトレイルマップ上において、トレイルコースの注意情報やマナー啓発などの情報発信に努めています。また、京都府山岳連盟及び京北自治振興会による定期的な巡回を通し、トレイルコースの維持補修に取り組んでいるところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設や観光サービスを、地元の旅行会社が優遇価格で仕入れられる仕組みを構築し、事業者が顧客を当該地域へ積極的に誘導できる経済的メリットを創出する必要がある。 分散化は、単なる呼びかけではなく、分散先の魅力を住民と共に磨き上げ、交通アクセスを改善すべきである。地域住民を巻き込み、観光による負荷を最小限に抑えつつ、地域に利益を還元する仕組みを作るべきである。 計画案は混雑エリアに偏重しており、観光客の少ない地域での交通整備や受入環境整備等の観光振興の施策を盛り込んでほしい。 	5	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「イ 多様なエリアにおける観光振興、府市連携等による広域周遊の促進」に記載のとおり、地域の団体・事業者等と共に、混雑が比較的発生していない市内の多様なエリアにおける観光体験の創出や、京都府や近隣自治体等と連携した広域観光の促進などに取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 市内の大学と連携し、日本史や日本文化に興味のある高学歴な富裕層向けに、歴史を学び、現地での特別な体験などを提供するプログラムができるだろうか。 	1	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ウ 高付加価値な観光の推進」に記載のとおり、京都ならではの特別な観光体験の創出・磨き上げに取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 観光サービスの充実、長期滞在の促進につながるよう、地域に根差した体験、イベントなど地域に密着した活動を行う宿泊施設オーナー向けのインセンティブを検討してほしい。 	1	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「エ 宿泊観光の促進」に記載のとおり、伝統産業製品や地元食材の利用促進等による宿泊施設の魅力向上、旅館の魅力発信等に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行の京都離れは深刻な問題であり、対策が必要。補助金を出してでもつなぎとめるべき。この5年が正念場ではないか。 修学旅行生と外国人観光客に何らかの特典を提供し、両者の交流の場づくりを検討してもよいのでは。 受入環境が整わない中での修学旅行の誘致は混雑の悪化につながる恐れがある。また、修学旅行生に京都ならではの体験を提供するに当たっても、特定の場所に集中してしまう懸念がある。 	4	<p>第2章「6 課題」に記載のとおり、一部の学校で修学旅行先を京都から他の方面に変更する動きが見られることは重要な課題であると認識しております。</p> <p>今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「オ 修学旅行・教育旅行誘致の強化」に記載のとおり、旅行事業者への聞き取り等を通じて全国の修学旅行の動向を把握した上で、修学旅行誘致活動等の強化に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
7	・ 観光やMICEは交流人口を創出するものであって、関係人口と直接の関係はない。関係人口ではなく、出張、転勤、転職を推進するほうが効果的である。	1	<p>観光客が京都で文化や産業の担い手と交流し、観光を通して気付きや学びを得ることは、新たな文化や産業を生み出すきっかけになります。こうした交流が地域への関心や愛着につながることは、関係人口の創出・拡大や、さらには二地域居住・移住につながる可能性を秘めるものと考えております。また、観光を通して京都の知名度やイメージが向上することは、多くの学生の京都への進学や他都市からの就職、企業の京都進出にもつながります。</p> <p>今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「カ多様な滞在の促進等による関係人口の創出・拡大」に記載のとおり、いわゆる「観光」的な滞在にとどまらず、滞在中にアートからビジネスまで幅広い分野で創作やクリエイティブな活動を行う方の受入体制づくりを進めるなど、多様な滞在の在り方・関わり方を提案・促進することで、地域とのつながり・交流のきっかけづくりを進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
8	・ 地理を理解せず、1日で嵐山や伏見稻荷大社、清水寺等を周遊する旅行会社もあるため、京都市をいくつかのエリアに区分して周遊させた方が良いと思う。	1	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」において、「多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ」「多様なエリアにおける観光振興、府市連携等による広域周遊の促進」等に取り組むこととしております。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
9	・ コロナ禍でのGoToトラベルキャンペーンのように、日本人観光客向けの宿泊、飲食、物販クーポンを発行してほしい。	1	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」において、「多様で奥深い観光体験の創出・磨き上げ」「宿泊観光の促進」等に取り組むこととしております。</p> <p>いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
10	・ モダン建築祭への参加を検討するなど、リニューアルしたロームシアター京都の積極的な活用を期待する。	1	<p>ロームシアター京都については、令和6年から京都モダン建築祭の参加建築としてラインナップされており、その他でも地域の賑わい創出の拠点となるよう活用を検討してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の施設運営の参考とさせていただきます。</p>
11	・ 写真家向けに、開門前後などの特定時間帯に境内で優先的に撮影できる権利の販売を提案したい。優秀な作品に賞を与えることで、京都市にとっての無料の広告となることも期待できる。	1	<p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>

第4章 暮らすように旅をつむぐプロジェクト（受入環境整備、情報発信）

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客の受け入れのため、駅や道路などのインフラ整備を進めるべき。 ・ 外国人観光客にとって分かりにくい案内板があり、改善されれば、より良い観光体験となるだろう。 ・ 交通機関や観光施設の完全キャッシュレス化を早期に実現してほしい。 ・ オーバーツーリズムは市民生活と密接に関わる問題であるため、交通インフラの整備、地下鉄のキャッシュレス化は不可欠である。 	7	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「キ受入環境の整備」に記載のとおり、公共交通機関の利便性向上や、自転車の利用環境の充実、事前予約制、キャッシュレス決済への対応などのデジタル化・DX推進等による観光客の利便性向上や混雑緩和等による受入体制の更なる充実に取り組んでまいります。併せて、名所説明立札（駒札）、観光案内標識等の整備にも取り組んでまいります。</p> <p>なお、市バス・地下鉄については、令和9年度中のクレジットカードタッチ決済及びデジタル乗車券の導入に向けて、現在、設計作業を進めているところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
2	<ul style="list-style-type: none"> 四条、三条、東山の観光地周辺は観光客やタクシーが多く、道路が狭く危険なため、自転車道を整備してほしい。 シェアサイクルの活用は混雑回避に有効であり、自転車専用道路の増設や道路の拡大等を進め、公共交通以外の移動手段を安全に選択させる環境を整えてほしい。 	3	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「キ受入環境の整備」に記載のとおり、自転車の利用環境の充実等に取り組んでまいります。</p> <p>自転車走行環境整備については、自転車交通量の多い路線などを中心に整備路線を選定し、自転車の通行位置を示す路面表示である矢羽根等を中心とした整備を進めております。今後は、道路状況に応じて自転車専用通行帯も含めた整備を検討するとともに、周辺地域への矢羽根等の整備を拡大してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> マナーの啓発にあたり、誰も見ていないHPやチラシは効果的とは言えない。「戦略的な情報発信」、「国や地域ごとの特性に対応した情報発信」とあるが、誘致だけではない情報の発信にも注力してほしい。 公式のアプリやSNS等を使い、混雑状況や穴場スポット、マナー啓発動画を発信してほしい。公式が発信する信頼できる情報が多言語で簡単に見つかると、観光客の行動変容につながる。 	3	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ク戦略的な情報発信」に記載のとおり、多様で奥深い京都の魅力や、「ツーリストシップ」に則った観光マナーなど、京都が観光客に伝えたい情報をしっかりと届けるため、AI等の先端技術の動向を注視しつつ、観光客のニーズや伝えたい内容に応じたきめ細かな情報発信等に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 音声ガイドや触地図など障がい者のアクセシビリティの向上に寄与する取組を進めてほしい。 寺社で靴を脱ぐ場合は、高齢者に配慮し、ベンチ等を設置してはどうか。 	10	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「キ受入環境の整備」に記載のとおり、高齢者や障害のある方、多様な文化的・宗教的背景を持つ外国人など、あらゆる人が快適に観光できる環境を整えるため、受入環境の充実に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 事業者への補助金支給などにより通訳の増員を図ってもよいのでは。 観光客専用に1泊1万円以下で、2万人以上を収容できる大規模な集合住宅と、専用の公共交通機関を整備してほしい。 バス停周辺の休憩スペースや案内所、小規模な回遊拠点など、生活と観光が自然に調和し、地域の人々と観光客の双方が安心して利用できる「小さな公共空間づくり」が必要である。 	4	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「キ受入環境の整備」に記載のとおり、公共交通機関の利便性向上や、自転車の利用環境の充実、事前予約制、キャッシュレス決済への対応などのデジタル化・DX推進等による観光客の利便性向上や混雑緩和、「京都市認定通訳ガイド」の育成・活躍促進等による受入体制の更なる充実に取り組んでまいります。</p> <p>なお、交通局では、安心、快適にバスをお待ちいただけるよう、地域・民間などの皆様から無償で提供いただいた用地等に上屋やベンチ、バス接近表示器などを設置する「バスの駅」事業に取り組んでおり、バス待ち環境の整備を推進しております。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 公共トイレの老朽化や衛生面が気になる。市民・観光客双方の満足度の向上に直結するため、清潔で使いやすいトイレを数多く整備してほしい。 公衆トイレを増やしてもらいたい。整備・管理に当たっては、清潔でゆったりした空間づくりを第一に心掛けてほしい。 	2	<p>公共のトイレの新設については、用地確保や地元合意、建設費用面で課題があることから、現状、新規設置を行う予定はございませんが、民間トイレの所有者の御協力を得て、市民や観光客の皆様にトイレを開放していただく観光トイレ制度の活用を推進し、現在、57箇所まで拡大しております。</p> <p>こうした取組を通じて、日常のトイレ清掃等の維持管理はもとより、快適に利用でき、利便性も高くなるよう質・量共にトイレ環境の更なる充実に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
4	・ ホテルスタッフによる京都駅ホームでの出迎えのため、駅構内にスタッフ用待機所を整備してもらいたい。また、入場料の免除等の規制緩和を鉄道会社に求めてもらいたい。	1	京都駅ホームでの出迎えは歓迎の意を表すおもてなしの一つである一方、その実施と環境整備については、鉄道会社において利用者の状況を踏まえながら検討・判断されるものと認識しております。 いただいた御意見は、関係部署及び関係機関に共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。
5	・ 宿泊施設での案内の際には紙の地図の方が重宝するため、以前発行されていた「京あるきマップ」のホテル・旅館への配布を復活してほしい。	1	「京歩きマップ」の宿泊施設への配布につきましては、いただいた御意見も踏まえ検討してまいります。
6	・ 観光サービス向上、知見の共有や、より強固な連携を目指して、京都市と宿泊施設オーナーが定期的に協議できる場の構築を検討してほしい。	1	現在、宿泊施設業界団体とも連携しながら、宿泊事業者の担い手確保に向けた取組をはじめ、業界の魅力発信等に向けて取り組んでおり、引き続き、業界の御意見も伺いながら、京都の観光・MICEが目指す姿の実現に向けて取り組んでまいります。 いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。
7	・ タクシーが多いのは便利だが、アプリ配車の普及や、観光客による無理な呼び止め等が見られるため、タクシー乗り場を増設してほしい。	1	いただいた御意見は、業界団体及び関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。
8	・ 駅のエスカレーターなど混雑エリアなどで歩行ルールが統一されていないため、案内サインなどで進行方向を示す必要がある。	1	交通局では、地下鉄駅構内において、混雑する階段の通行区分を明確にする階段通行区分サインや、ホームで列車待ちをされているお客様の整列を促すホーム階整列乗車サインを設置しております。 また、エスカレーターについては、お客様に安全に効率よくご利用いただくため、「2列に並んで」、「歩かず御利用ください」と呼び掛ける啓発サインを設置するとともに、高校や関係団体との連携によるマナー啓発に取り組んでおります。 いただいた御意見は、関係部署と共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。
9	・ 北陸新幹線やリニアなどよりも、観光客で混雑する京阪・JR東福寺駅とJR稻荷駅、京阪伏見稻荷駅の地下化など、市内の公共交通の改善を真っ先に進めてほしい。	1	「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「キ受入環境の整備」に記載のとおり、公共交通機関の利便性向上に取り組んでまいります。 いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。
10	・ 非公式な情報や一貫性のない情報により外国人観光客の混乱を招いていることから、観光客向けに多言語対応の情報提供システムを構築してほしい。 ・ デジタル世代の観光客は検索サービスなどに従って移動しており、訪問先の分散化を周知しても行動変容は難しい。分散化、混雑回避できるルートが検索結果として提案できるよう、ソフトウェア企業との連携が必要。	2	本市は現在、京都観光オフィシャルサイト「京都観光Navi」（海外向け：Kyoto Travel -Kyoto City Official Guide-）において、京都観光に関する情報を一元的に発信する取組を推進しております。 また、今後、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ク戦略的な情報発信」に記載のとおり、多様で奥深い京都の魅力や、「ツーリストシップ」に則った観光マナーなど、京都が観光客に伝えたい情報をしっかりと届けるため、AI等の先端技術の動向を注視しつつ、観光客のニーズや伝えたい内容に応じたきめ細やかな情報発信に取り組んでまいります。 いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。

第4章 暮らすように旅をつむぐプロジェクト（観光関連産業の活性化・従事者の活躍促進）

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・持続可能な観光のため、従事者の労働環境改善が不可欠である。「観光で働くことが魅力的な選択肢になる社会づくり」を計画に位置付けるべき。	1	「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「コ 従事者の活躍促進」に、「従事者が誇りをもって京都の観光業界で働きたい・働き続けたいと思える環境づくり」に取り組む旨を明記しました。

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・観光産業の人手不足は深刻で、サービスの質を保つことが難しくなっている。労働環境の改善など、観光を支える側の環境づくりが欠かせない。 ・観光業界のDXやキャッシュレス環境の普及を推進してほしい。 ・観光産業の人材不足は深刻であり、待遇改善や研修支援、長期的に働く環境づくりが必要である。伝統産業や地場産業と連携した観光プログラムの育成も、担い手確保や地域資源の維持に寄与する。 ・宿泊業界の人手不足の要因の一つに、休暇の取りづらさや給与水準の低さがあるため、賃金や休暇制度等の労働環境を改善する必要がある。	6	「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ケ 観光関連事業者の持続的な経営の促進、観光関連産業の活性化」に記載のとおり、事業者のデジタル化・DX推進や、事業者同士のネットワークづくり、スキルアップ支援等に取り組むことで、観光関連産業の生産性の向上や、従事者の待遇改善、サービスの質の更なる向上につなげ、観光関連事業者の持続的な経営を促進してまいります。 いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。
2	・業界的にブラックのイメージがあるため、飲食、宿泊業界の担い手不足が心配である。 ・店舗等において、言語の違いから大きなストレスを感じることがある。研修の充実等により、誰もが安心して利用できる環境を整えるべきである。	3	「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「コ 従事者の活躍促進」に記載のとおり、観光関連業界で働くことの魅力の発信や、従事者と大学生・専門学校生、留学生等との交流会等による従事者の確保、従事者の育成支援の強化、観光関連産業の活性化等を通じて、従事者が誇りをもって京都の観光業界で働きたい・働き続けたいと思える環境づくりに取り組んでまいります。 いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・あらゆるサービスは模倣され急速に陳腐化するが、老舗や伝統産業等が持つストーリーや世界観は模倣できない。こうした企業が淘汰されないよう、宿泊税を活用して支援してほしい。 ・老舗が多いことが京都の魅力をつくっているため、土地価格が高騰する中で経営が続けられるよう、行政からの配慮が必要である。	2	「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「ケ 観光関連事業者の持続的な経営の促進、観光関連産業の活性化」に記載のとおり、事業者のデジタル化・DX推進や、事業者同士のネットワークづくり、スキルアップ支援等に取り組むことで、観光関連産業の生産性の向上や、従事者の待遇改善、サービスの質の更なる向上につなげ、観光関連事業者の持続的な経営を促進してまいります。 また、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」中「ウ 観光が京都にもたらす効果の最大化」に記載のとおり、幅広い産業や文化、文化財などに観光効果が波及していくよう取り組んでまいります。 いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。
2	・観光関連従事者向けに寺社の拝観料等の優待策を検討してほしい。京都のことを知らない観光関連従事者が京都について知るきっかけとなり、京都全体の観光レベルの向上にもつながる。 ・多言語対応は周辺地域への分散化の必須条件であることから、京都市中心部以外の事業者への英語資料の作成や従事者の英語力向上への支援を強化してほしい。 ・観光やMICEにおける人材不足は深刻であるため、業界の魅力を発信するイベントや、SNS・メディアでの紹介、優秀な人材へのインセンティブ制度の導入が必要である。	5	「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「コ 従事者の活躍促進」に記載のとおり、観光関連業界で働くことの魅力の発信や、従事者と大学生・専門学校生、留学生等との交流会等による従事者の確保、従事者の育成支援の強化、観光関連産業の活性化等を通じて、従事者が誇りをもって京都の観光業界で働きたい・働き続けたいと思える環境づくりに取り組んでまいります。 いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
3	<ul style="list-style-type: none"> 芸術家や職人を支援すべきであり、経済的な安定のためにも地方に取り残されている職人が京都で活動できるような支援も必要ではないか。 職人同士のつながりの強化のためにも、翻訳の支援や共通のプロモーションプラットフォームの提供、拠点の提供など、地域の職人や中小企業への支援を検討してほしい。 	2	<p>芸術家への支援については、京都芸術センター等を設置し芸術家の支援施策を講じているほか、「京都市芸術文化特別奨励制度」、「助成金等内定者資金融資制度」、「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」、「京都市文化芸術総合相談窓口（通称：KACCO）」、「Arts Aid KYOTO制度」など、多角的な視点で芸術家の支援施策を展開しているところです。</p> <p>また、職人への支援については、新たに伝統産業に携わりたいという方と雇用先となりうる事業者とのマッチング事業のほか、京都市内の事業所に勤務する若手の伝統産業職人を対象とした自己研鑽資金の交付、後継者・技術者の確保・育成や技術継承に資する事業を対象とした補助金の交付など、様々な支援を行っているところです。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>

第4章 暮らすように旅をつむぐプロジェクト（安心・安全、危機対応力の向上、環境負荷低減）

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の多言語対応などを進めるべき。 外国人観光客が慣れない災害に遭遇しパニックになる恐があるため、災害時の多言語による情報伝達や備蓄、宿泊施設への避難誘導などの対策が必要である。 災害時に京都駅周辺などが混乱する恐があるため、多言語による情報伝達や備蓄、宿泊施設や公共施設での受け入れなどの対策が必要である。 	4	<p>現在、京都観光オフィシャルサイト「京都観光Navi」（海外向け：Kyoto Travel -Kyoto City Official Guide-）において、観光客が災害時に活用できる情報提供サイトや各種マップ情報を発信するとともに、実際に災害が起きた際には、ポップアップ表示で旅ナカの観光客に情報発信をしております。また、京都観光オフィシャルサイトにつながる二次元コードを掲載した観光案内ステッカーを観光案内標識に掲示し、情報発信を強化しております。</p> <p>さらに、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「サ 安心・安全、観光関連産業の危機対応力の向上」に記載のとおり、平常時における市民・観光客双方の安心・安全の確保や、災害発生時の危機対応力の向上に取り組んでまいります。</p> <p>また、災害等が発生した際のリスクを緩和するため、平常時から、特定の国や地域に偏らない誘客を進めるとともに、危機が発生した際に比較的回復の早いリピーターや近郊からの観光客の誘客にも取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 京都議定書誕生の地として、バス・タクシーのEV化など環境に配慮した観光を推進するとともに、火災の恐がある飲食店への行政指導など、安全で心地よい、観光と市民生活の両立を推進してほしい。 	1	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「シ 観光による環境負荷低減」に記載のとおり、観光関連事業者、観光客による温室効果ガス排出量削減や食品ロス・プラスチック等のごみの減量・分別に関する啓発、自然を活かした環境負荷の少ない観光体験の創出等に取り組んでまいります。</p> <p>また、同プロジェクト中「サ 安心・安全、観光関連産業の危機対応力の向上」に記載のとおり、平常時における市民・観光客双方の安心・安全の確保や、災害発生時の危機対応力の向上に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 近年の酷暑や過度なオーバーツーリズム報道、宿泊税の値上げなどの要因により、外国人観光客が減少する可能性も考慮するべきではないか。 	1	<p>第2章「6 課題」には、「4 京都の観光・MICEの現状」「5 世界・国内の動向と今後の見通し」等の状況を踏まえ、「今後、外国人観光客の増加が予測される」と記載しておりますが、様々な外的要因から、外国人観光客が減少する可能性も否定できないものと認識しております。</p> <p>このため、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「サ 安心・安全、観光関連産業の危機対応力の向上」に記載のとおり、平常時から、特定の国や地域に偏らない誘客を進めるとともに、危機が発生した際に比較的回復の早いリピーターや近郊からの観光客の誘客にも取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷軽減とサステナビリティの確保に係る目標値等が不十分。環境負荷の見える化や、CO2排出量削減指標、廃棄物削減の取組、自然・景観保全の基準等を示すべき。宿泊税をこうした取組や生活環境の保全に再投資する姿勢を示すのもよい。 	1	<p>「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」中「シ 観光による環境負荷低減」に記載のとおり、観光関連事業者、観光客による温室効果ガス排出量削減や食品ロス・プラスチック等のごみの減量・分別に関する啓発、自然を活かした環境負荷の少ない観光体験の創出等に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

第4章 MICEでつどうプロジェクト

計画案に反映した御意見した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> MICEの定義やそれぞれの説明、MICEの実例に関する分かりやすい解説が必要である。 MICEやユニークベニュー、スタートアップ、サステナブルMICEなどの専門用語がよく分からない。 	3	<p>計画冒頭（目次の次の頁）に、本計画におけるMICEの定義や事例等を追記するとともに、「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」にサステナブルなMICEについての説明を追記しました。</p>

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> MICEを京都で行うメリットを市民に感じてもらうためにも、国際会議等に市民や大学生向けの参加枠の設定を検討してほしい。 国際会議の市民傍聴など、参加できる機会をつくってもらいたい。 市民公開講座をより参加型、体験型にし、MICEの意義を親子三世代で学べるような仕組みを作ることで、市民がMICEに関心を持つ機会の醸成をすべき。 学生がボランティアやスタッフとしてMICEに関わる機会を広げれば、京都の若者のキャリア形成にもつながり、教育都市としての京都の価値向上にも寄与する。 MICEを学生や留学生にとって身近なものにするため、公開講演やボランティア等の参画機会を整え、キャンパス内で発信してほしい。 	8	<p>「MICEでつどうプロジェクト」中「ア 市民や学生、研究者、企業等との交流や学びの場の創出等によるMICEの効果の最大化」に記載のとおり、学生等のMICEへの参加促進や、市民公開講座や関係者以外の方にも広く参加いただける国際会議等の情報発信等市民の知見向上の機会の創出等に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> MICEは、短絡的な経済効果を追わず、京都全体を巻き込んで、寺院や伝統的な建物など京都ならではの環境を提供することで魅力的なMICEとともに、市民や学生の知的好奇心を満たすようなものにすることで、京都のさらなる発展につながる。 	1	<p>「MICEでつどうプロジェクト」中「ア 市民や学生、研究者、企業等との交流や学びの場の創出等によるMICEの効果の最大化」に記載のとおり、主催者に対して、京都ならではのユニークベニューの活用や、市民公開講座の開催などを働きかけ、文化の維持・継承や市民の知見向上の機会の創出等を図ってまいります。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
3	<ul style="list-style-type: none"> 京都を国際的学術活動の中心地として捉えていることを嬉しく思う。京都の知的財産、イノベーションの力は、守り、育てていかなくてはならない貴重な財産である。 京都のものづくりのまちとしての強みを活かし、京都の企業や研究機関とMICE主催者をつなぐ仕組みを構築することで、MICE誘致に結び付けるべき。 	2	「MICEでつどうプロジェクト」中「ア 市民や学生、研究者、企業等との交流や学びの場の創出等によるMICEの効果の最大化」に記載のとおり、市内の企業や大学との連携の下、MICEを契機としたビジネス機会の創出、イノベーション・スタートアップの促進を図ってまいります。併せて、同プロジェクト中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、京都が誇る企業や大学等との連携の強化を図ってまいります。
4	<ul style="list-style-type: none"> 本計画で重要なのは「観光・MICEの意義・効果」が達成、前進していることであるが、「MICEの意義・効果」のうち「市民生活の活性化」及び「都市格やブランド向上」に良い影響が出ているのか疑問がある。 	1	「MICEでつどうプロジェクト」中「ア 市民や学生、研究者、企業等との交流や学びの場の創出等によるMICEの効果の最大化」に記載のとおり、主催者に対して市民公開講座の開催などを働きかけ、市民の知見向上の機会の創出等を図ってまいります。併せて、同プロジェクト中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、京都の都市格の向上につながる会議の誘致・開催支援にも取り組むことで、MICEの意義・効果の最大化を図ってまいります。
5	<ul style="list-style-type: none"> MICEは高い経済効果の一方で、大規模イベントにより地域に影響を与える恐れがある。MICEの利益を地域コミュニティや環境整備に還元することで、住民が「受け入れる理由」を持てるようになる。 	1	「MICEでつどうプロジェクト」中「ア 市民や学生、研究者、企業等との交流や学びの場の創出等によるMICEの効果の最大化」に記載のとおり、主催者に対して市民公開講座の開催などを働きかけ、市民の知見向上の機会の創出等を図るとともに、地域貢献プログラムの先進事例の創出にも取り組んでまいります。併せて、同プロジェクト中「ウ MICEの認知度向上、MICEの効果の見える化の推進」に記載のとおり、MICEの意義や効果を市民に対して分かりやすく発信し、MICEの受入れや参入、さらには誘致・開催への機運醸成を図ってまいります。
6	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議が国際会館だけで完結しているのであれば、非常に勿体ない。参加者には、国際会議を契機に、京都の魅力を存分に堪能してもらいたい。 保護者が学会等の会議に参加している間、子どもが体験できる京都ならではの文化体験プログラムを整備するなど、MICE参加者にも訴求すべき。 	2	<p>「MICEでつどうプロジェクト」中「ア 市民や学生、研究者、企業等との交流や学びの場の創出等によるMICEの効果の最大化」に記載のとおり、参加者の滞在の長期化及びリピーター化の促進を図ってまいります。併せて、同プロジェクト中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、京都ならではの魅力的なプログラムの開発や活用促進に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍以降、京都で開催される国際会議が減少しているようを感じる。MICEの誘致が必要。 	1	「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、誘致活動の強化を図ってまいります。
8	<ul style="list-style-type: none"> 日本のMICE施設は他国と比較して、多言語対応や海外の参加者が不十分だと感じる。世界とのネットワーク強化や多言語対応を推進してほしい。 	1	<p>「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、商談会への出展等を通じた世界とのネットワーク構築及び情報発信の強化や、事業者における人材育成等への支援などに取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> 大学と連携したMICEを推進してほしい。 	1	「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、京都が誇る大学等との連携の強化を図ってまいります。
10	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等の誘致について、主催者への援助金や会場費の割引などの経済支援、スタッフの提供などの人的支援があると誘致しやすくなるのではないか。 	1	<p>「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、主催者ニーズにきめ細かく対応した開催支援の充実に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
11	<ul style="list-style-type: none"> MICEは高い経済効果があるが、認知度が低く市民にはその恩恵が見えにくい。MICEがもたらす具体的な効果を市民に周知する必要がある。 MICEの誘致に賛成である。MICEという言葉は市民に浸透していないため、認知度向上に取り組んではほしい。 MICEの成功事例や、地域の消費額の増加・学生参加等のメリットを示すことで、MICEの意義や効果への理解が深まると思う。 MICEの市民への周知が不十分。関連イベントなどを通じてホストシティとしての機運醸成が必要である。 	7	「MICEでつどうプロジェクト」中「ウ MICEの認知度向上、MICEの効果の見える化の推進」に記載のとおり、MICEの意義や効果を市民に対して分かりやすく発信し、MICEの受入れや参入、さらには誘致・開催への機運醸成を図ってまいります。
12	<ul style="list-style-type: none"> 夏と冬に重点的に国際会議を誘致してほしい。その時期の開催には輸送手段を提供する等の優遇策が考えられる。京都の夏は暑く、冬は寒いという印象の定着による観光客減少への対策にもなる。 	1	<p>現在、MICE開催支援に係る助成金・補助金について、観光の繁忙期である3月下旬～4月上旬、11月下旬等を助成・補助除外日とするなど、閑散期における開催を促しており、観光の時期の分散化につなげているところです。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> 世界から質の高い国際会議の地として選ばれる「突き抜ける国際MICE都市」に強く期待する。 	1	<p>京都がこれからも国際的なMICE都市として世界から選ばれ続けるために、京都の強みを活かしたMICE誘致の強化を図るとともに、MICEの効果の最大化を図ることで、突き抜ける国際MICE都市を目指してまいります。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 大学が多い京都で、国際会議の開催件数が減少していることは惜しいと感じる。会場整備だけでなく、交通の利便性等の基本環境の向上が必要である。 	1	<p>「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、事業者同士のネットワーク構築や連携強化、施設間連携によるMICEの受入体制の構築などを通じた受入環境整備に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署及び関係機関に共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 京都市は世界の知名度に対して、MICE施設の数、規模、質ともに足りていないとの声があるため、国、府と連携し施設整備を進めてほしい。 MICE誘致には施設整備への公共投資が必要だが、京都では国際会館の開館以降60年近くも行われていない。次期計画においても公共投資に関する記述がないことに危機感を覚える。 MICE誘致に期待する。パルスプラザのようなアクセスが抜群とはいえない施設の利便性向上や、アーティストやアイドルの全国ツアー公演が京都市で行われるよう、施設整備や誘致を行うべき。 京都市は、MICEのEに当たるスポーツやアーティストイベントのできる会場の数、質、キャパシティに課題がある。 	6	<p>京都では、日本初の国際会議場である国立京都国際会館をはじめ、京都市勧業館（みやこめっせ）やロームシアター京都など、MICE関連施設の整備が進められてきました。今後も様々なMICEが京都で開催されるよう、「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、施設間連携によるMICEの受入体制の構築などを通じた受入環境整備に取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 国際会館の魅力や利用価値を上げるためのアップデートが必要である。経済効果を生むために、庭園の一般公開等、いつでも誰でも利用できるようにすることや、商業施設、宿泊施設の併設も検討すべき。 	1	<p>国立京都国際会館においては、昭和41年に開館して以降、次々とホールの増築・機能強化を重ね、現在もニューホールの拡張が進められています。</p> <p>いただいた御意見は、関係機関に共有するとともに、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
4	<ul style="list-style-type: none"> 京都のコンベンションは学術振興・国際貢献、文化発信の面において秀でている。今後、誘致すべき会議の意義を再検証し、支援策や体制の強化が望まれるため、観光行政とは切り離して専門的な体制で推進すべき。 MICEと観光は別物であり、分けるべき。また、MICEの意味を知らない人がほとんどであるため、計画で何をしようとしているのかも伝わらない。 	2	<p>観光政策とMICE政策は、相互に深く結びついており、相乗効果を最大化するためには、連携させることが望ましいとの考え方の下、1つの計画にまとめております。</p> <p>計画の推進に当たっては、MICE振興の中核的な役割を果たす公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー（KCVB）と京都市がそれぞれの役割の下でより一層綿密に連携し、各施策に取り組んでまいります。</p> <p>また、「MICEでつどうプロジェクト」中「ウ MICEの認知度向上、MICEの効果の見える化の推進」において、MICEの意義や効果を市民に対して分かりやすく発信し、MICEの受入れや参入、さらには誘致・開催への機運醸成を図ってまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

第5章 推進体制・推進の仕組み

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 行政の動きが見えづらく、取組の成果が伝わってこない。 宿泊税の税率見直しは評価できる。空港や駅、公共交通機関等で使途を発信してほしい。 	3	<p>第5章「2 推進の仕組み」に、観光動向等の各種統計調査結果をはじめ、各種施策や事業の成果、宿泊税の使途など、観光・MICE政策にかかわる様々な情報を分かりやすく発信していく旨を明記しました。</p> <p>宿泊税の使途については、駅や市バス・地下鉄車内において、動画やポスター等を用いて周知を行っております。その他、ホームページやSNSでの発信、市・区役所や観光案内所、宿泊施設での掲示等も含め、市民・宿泊客双方に広く発信できるよう、取り組んでまいります。</p>

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊税は、市バスの混雑対策なども含め、もっと観光関連の事業に充てるべきである。 宿泊税は、宿泊客のメリットとなる取組に活用してほしい。 観光税を、道路整備や公共交通機関の改善に活用するなど、負担と利益のバランスを保ち、住民が恩恵を実感できる環境づくりが重要である。 宿泊税の使途として混雑緩和や市民生活の利便性向上に活用してほしい。また、計画に具体的な使途を明示してほしい。 	7	<p>宿泊税は、国際文化観光都市としての魅力を高め、及び観光の振興を図る施策を推進するための目的税であり、第2章「1 京都の観光・MICEの意義・効果」に記載のとおり、観光・MICEの振興や、観光課題への対策はもとより、文化芸術の振興、歴史的・伝統的な町並み景観や自然景観の保全、社会インフラの機能強化等の利便性向上や安心・安全の確保など、市民・観光客双方の満足度を高めるための施策にも活用してまいります。</p> <p>また、第5章「1 推進体制」に記載のとおり、この計画の推進に当たっては、宿泊税等を活用して取り組んでまいります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客が京都の海や山などに訪れるような施策を講じているのか気になるため、分散観光がどの程度図られているのかを調査し明らかにしてほしい。 	1	<p>計画の推進に当たっては、観光客の国や地域等の属性ごとに精緻に動向を分析するとともに、先端技術を活用し、観光動向等に関する定量的なデータの調査手法の検討も進めるなど、データに基づいて取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税の増税や、宿泊税以外の観光客への負担を検討すべき。 ・外国人観光客への宿泊税の強化など、外国人観光客に課税する仕組みを検討すべきである。 ・宿泊税だけでなく、旅行者の大部分を占める日帰り客から何らかの費用を徴収する方法を検討してほしい。 ・外国人を受け入れても京都市の歳入にならないと聞くため、国に働きかけて外国人から特別な税を徴収することを検討してはどうか。 ・駐車場税など、観光客の新たな負担を検討してほしい。 	8	<p>本市では、「京都市住みたい・訪れたいまちづくりに係る財源の在り方に関する検討委員会」において、様々な視点から入洛客への新たな負担の在り方等を検討し、その結果として、平成30年度から宿泊税を導入しました。また、令和8年3月から税率の見直しを行うこととしております。</p> <p>宿泊税以外の観光客への負担の在り方については、同審議会の答申においても言及されており、徴収のためのインフラ・システムの構築をはじめ様々な課題がありますが、引き続き研究してまいります。</p> <p>なお、一般論として、合理的な理由なく、相手方の国籍だけをもって、価格や税率を区分することは適当でないと認識しております。</p> <p>また、国においては、日本から出国する旅客に対し、令和元年度から国際観光旅客税を課税するとともに、今後、税率の引上げを検討されているものと承知しております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて古都税を議論するなど、宿泊税だけでなく観光客全體から費用を徴収する手段を検討してほしい。 ・寺社の拝観への課税など観光税を徴収するべき。 ・文化財保全に関する特定財源として、寺社の収益事業に対して課税を検討してほしい。 	4	<p>寺社等の宗教法人については、憲法上の信教の自由を保障する観点等から、国の法律（地方税法等）により、専ら宗教活動のために使用する境内建物等に対する固定資産税や、お布施等の宗教活動から生じた所得に対する法人市民税は、非課税となっております。</p> <p>ただし、収益事業（例：駐車場経営や飲食物の販売）を行う場合などは、そのために利用する固定資産や得られた収益に対して固定資産税や法人市民税を課税しており、従業員に支払う給与に対しても、通常の給与と同様に住民税を課税しております。</p> <p>なお、本市では、「京都市住みたい・訪れたいまちづくりに係る財源の在り方に関する検討委員会」において、様々な視点から入洛客への新たな負担の在り方等を検討し、その結果として、平成30年度から宿泊税を導入しました。また、令和8年3月から税率の見直しを行うこととしております。宗教法人への課税に対する考え方は前述のとおりですが、宿泊税以外の観光客への負担の在り方については、同審議会の答申においても言及されており、徴収のためのインフラ・システムの構築をはじめ様々な課題があるものの、引き続き研究してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
3	<ul style="list-style-type: none"> ・国際観光旅客税と宿泊税を廃止してほしい。 ・宿泊税は、円安下では外国人には負担ではなく抑制にもつながらない。日本人に影響があるだけであるため廃止してほしい。 	3	<p>本市では、市民の安全・安心な生活をしっかりと支え、将来にわたり必要な施策・事業を実施することができるよう、持続可能かつ機動的で、特別の財源に依存しない、景気変動等にも耐え得る足腰の強い財政の確立を図っていくとし、そのためには、自主財源の拡充強化により、財政の自主性、安定性を高めていくことも重要であることから、「入洛客への新たな負担の在り方や超過課税等の課税自主権の活用」について検討し、その結果として、平成30年度から宿泊税を導入しております。観光客を抑制する目的で課税しているものではなく、市民生活と観光の調和・両立を図る取組を推進するため、今後も引き続き、宿泊税の徴収が必要であると考えております。</p> <p>なお、国際観光旅客税については、国において、観光先進国実現に向けた観光基盤の拡充・強化を図るための恒久的な財源を確保するために課税されているものと承知しております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易宿所や民泊は増加しており、京都の伝統文化を守ってきた旅館が無くなる恐れもある。旅館の減少対策のためにも、宿泊税の増税分は一般財源化をせずに宿泊事業者のために活用してほしい。 ・特定地域への観光客の集中は宿泊税の引き上げで抑えるのではなく、市街地周辺や府域など「奥京都」に誘導する環境整備によって解決すべきである。 	3	<p>宿泊税は、国際文化観光都市としての魅力を高め、及び観光の振興を図る施策を推進するための目的税です。特定地域への観光客の集中を分散する狙いで課税しているものではありませんが、宿泊税収入は、観光・MICEの振興や、観光課題への対策はもとより、文化芸術の振興、歴史的・伝統的な町並み景観や自然景観の保全、社会インフラの機能強化等の利便性向上や安心・安全の確保など、市民・観光客双方の満足度を高めるための施策にも活用してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊税は東京都のように定率制とするべきである。また、建物の高さ規制の緩和をするのであれば、建物の高さによって税率を変えることを検討するべき。 ・高価格帯を中心とした宿泊税の更なる増税や定率制の導入を検討してほしい。 	2	<p>宿泊税の定率制（宿泊料金の一定割合を課税する方式）は、負担能力に応じた負担という観点からはより理解が得られやすい手法と考えられますが、徴収事務を担う宿泊事業者の事務負担増加等が懸念されるため、本市では定額制を導入しております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客による恩恵を受けている神社仏閣から京都市への寄付等の支援を積極的に求めるべきである。既に寄付を受けている場合は、市民感情への配慮の面からも市は積極的に公表すべきである。 	1	<p>神社仏閣は、京都の文化、まちづくりに欠かせない存在であり、これまでから寄付や事業への参画、場所の提供といった様々な面で協力をいただいており、市のホームページ等でも情報発信をしているところです。今後とも「新しい公共」の観点から連携を深めてまいります。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の役割がよくわからない。外郭団体なら、もっと京都市が分かりやすく役割や活躍をPRすべき。外郭団体ではないなら、外郭団体にてもっと力を入れたほうが良いのではないか。 	1	<p>公益社団法人京都市観光協会（DMO KYOTO）は本市の外郭団体ではありませんが、計画の推進にあたっては京都市観光協会との密接な連携の下で取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>※外郭団体：本市が出資金、基本金その他これらに準じるもののが出資している法人</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・長期滞在時の宿泊税の割引を検討してほしい。 	1	<p>宿泊税は、滞在の期間にかかわらず、宿泊日数に応じて課税しており、修学旅行等の学校行事による宿泊である場合や、やむを得ない事情により納付困難な状況である場合に税負担を軽減しているところです。</p> <p>現時点で長期滞在時に税負担を軽減することは検討しておりませんが、いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、適正な税負担の在り方の検討の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
9	<ul style="list-style-type: none"> 観光のような不安定なものに高額な宿泊税を課すことは、将来的に住民に対する増税につながる恐れがあることから反対である。観光振興は民間のPRで十分であり、インフラ整備も他の税収で行うべき。 	1	<p>観光客が一部エリアに集中するなど、京都の魅力を十分活かし切れていないことや、観光課題の発生、観光の効果が市民等に十分認識されていない等の現状の中、このような課題に対応するための取組に要する費用について、観光客にも応分の負担を求めるため、宿泊税を導入し、令和8年3月から税率の見直しを行うこととしております。</p> <p>宿泊税収入は、観光・MICEの振興や、観光課題への対策はもとより、文化芸術の振興、歴史的・伝統的な町並み景観や自然景観の保全、社会インフラの機能強化等の利便性向上や安心・安全の確保など、市民・観光客双方の満足度を高めるための施策にも活用してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> 目標や課題、対策、指標等の関係をロジックツリーで可視化し、年次レビューで施策評価できる仕組みとしてほしい。重点課題・プロジェクトが先行するのではなく、データに基づく因果関係を前提としてほしい。 	1	<p>計画の推進にあたっては、第5章「2 推進の仕組み」に記載のとおり、データに基づく取組を徹底するとともに、「『京都観光・MICE振興計画2030』マネジメント会議」（仮称）を設置し、目指す姿の実現に向けてより効果的な施策を展開してまいります。</p> <p>いただいたご意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>

第6章 京都の魅力を未来に引き継いでいくために

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 計画の最後の第6章に、唐突に情緒的な文章が現れる構成は不自然に感じる。理念を語るならば冒頭に配置し、そこから論理的な説明へつなげる構成の方が自然である。 	1	<p>本計画は令和12年度までの5箇年の計画であるところ、第6章「京都の魅力を未来に引き継いでいくために」は、当該計画期間を超えた長期的な課題感を提示するものであり、計画の終章に位置付けておりましたが、中間案では当該の要素が伝わり辛い文章となっていたため、第6章の本文に、「この計画期間を超えて」取り組んでいく旨を明記しました。</p>

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客が集中し、京都ならではの雰囲気がなくなり、日本人が近寄り難くなっている地域がある。京都の魅力に真摯に向かい、守っていくことについて具体的に計画に明示されることを期待する。 各地で外国人向けのサービスを見かける機会が増えている。長い歴史の中で培ってきた文化、伝統産業は、一度滅びてしまうと元には戻らない。観光は否定しないが、京都を安売りするような現状は正していく必要がある。 外国人観光客の急増に伴い、飲食店は値上がりし、大規模な土地にはホテル建設が進んでいる。近代化することは否定しないが、伝統や文化が蔑ろにされていると感じるため、しっかりと保存してもらいたい。 「京都の本質的な魅力」は人それぞれである。一方的に決めつけたり、押しつけたりすることはやめてほしい。 当然のように観光客が来てくれると思うのは誤りで、近年のオーバーツーリズム報道や、変わりゆく街並み、文化の喪失の全てが観光客の京都離れを招いている。 	15	<p>担い手不足や生活様式の変化、外国人観光客の急増等の大きな変化の中、京都の魅力が将来にわたり当然に維持される状況にはないと認識しております。今後、京都ファンに対して、「京都の魅力は何か」「これからも京都にお越しいただくためにはどうすればよいか」を調査することで、「多様で奥深い京都の本質」を追求してまいります。</p> <p>なお、本市では、京都の町並み景観や生活文化の象徴である京町家を次世代に引き継ぐため、京町家を保全・継承するための取組を総合的に推進しており、引き続き、一軒でも多くの京町家を未来に残していくよう努めてまいります。</p>

その他

計画案に反映した御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・ 「観光客」の定義を明確にするべき。 ・ 計画における「観光客」の定義を明記してほしい。	2	計画冒頭（目次の次の頁）に、本計画における観光客の定義を明記しました。
2	・ 「京都ファン」を増やすという考え方と共に感する。長期滞在や関係人口の形成について触れられている箇所に、留学生も位置付けてほしい。	1	第2章「1 京都の観光・MICEの意義・効果」中、関係人口の注釈に、「京都の大学に進学・留学していたなど、過去に京都とかかわりがあり、現在も京都を応援する意向のある人」を明記しました。 また、第5章「1 推進体制」中「①それぞれに期待される役割」に、留学生が含まれる旨を明らかにするため、「大学・学生」を「大学・学生（留学生を含む）」に修正しました。
3	・ 京都観光モラルは通称名だが、今回の計画案には正式名称である「京都観光行動基準」が出てこない。正確に記載すべき。	1	計画の全般にわたり、「京都観光行動基準」という正式名称を併記しました。

計画案に趣旨が盛り込まれている御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・ 観光客数ではなく、観光消費額単価の高い層の誘客に注力すべきである。MICE誘致もその取組の一つである。	1	MICE参加者の滞在中の消費額は、他の観光客よりも単価が高く、さらに、主催者による会議開催に関連する様々な消費も行われることから、MICEの開催は広範囲に高い経済効果をもたらすことが期待されるため、「MICEでつどうプロジェクト」中「イ 京都の強みを活かしたMICE誘致の強化」に記載のとおり、誘致活動の強化を図ってまいります。
2	・ 全般にわたり観光とMICEが一体で記載されているが、どちらのことを指しているのか分かりづらい。	1	観光政策とMICE政策は、相互に深く結びついており、相乗効果を最大化するためには、連携させることが望ましいとの考え方の下、1つの計画にまとめております。 重なる部分も多くあることから、完全に書き分けることは困難ですが、各項目の見出しに、それぞれ「観光」又は「MICE」と冠し、可能な限り書き分けを行っております。 本計画の策定後、観光関連事業者・従事者等や、業界団体、関係団体はもとより、市民、観光客等に対しても、本計画の内容の分かりやすい周知に努めてまいります。

今後の参考とさせていただく御意見等

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・ 京都には観光以外の素晴らしい産業がたくさんある。観光客誘致を重視するのではなく、他の中小企業、特に伝統産業の活性化に注力すべきである。 ・ 様々な要因で観光産業は不安定であるため、観光だけではなく他の産業の育成や大企業の誘致に取り組むことが重要である。	2	本市には、中小企業、ベンチャー、ものづくり、観光、農林業など幅広く多彩な産業が集積しており、観光産業のみならず、御指摘の伝統産業や地域企業の振興、更には企業誘致も含め、積極的に取り組んでいるところです。 いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。
2	・ 目標値を上げたいということ以外、終始分かりにくい。 ・ この計画が市民全体に届くように、SNSなど人目のつくところに掲載してほしい。市民全員で課題解決に取り組むべきだと思う。	2	本計画の策定後、観光関連事業者・従事者等や、業界団体、関係団体はもとより、市民、観光客等に対しても、本計画の内容の分かりやすい周知に努めてまいります。

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
3	<ul style="list-style-type: none"> 二条城の天守閣復活や伏見桃山城の天守閣整備をしてほしい。 二条城の天守閣を復活してほしい。 	2	<p>二条城については、平成23年度から現存する重要文化財等の本格修理事業に取り組んでおり、この本格修理を優先すべきと考えております。</p> <p>伏見桃山城については、築60年が経過しており、建物や設備の老朽化に伴う修繕や耐震工事に多額の経費が必要となるなど課題が多いため、民間事業者による活用も含めて検討を行ってはおりますが、現在、活用の方向性を見出すことができおりません。今後も、興味を示されている民間事業者の御意見も伺いながら、引き続き活用に向け検討してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 京都駅前の再開発に伴い高さ規制を緩和する議論が行われているが、古都を守ることが京都市の役割ではないのか。 京都駅前の再開発に伴い高さ規制を緩和する議論が行われているが、本末転倒である。京都の良さを守ることが京都市の役割ではないのか。 	2	<p>京都駅前の再生については、「京都市都市計画マスターplan」や「新京都戦略」に掲げるまちづくりの将来像の実現に向け、必要な取組を実施してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 観光とMICEを同時に論じることに無理があり総合的な計画となっている。 	1	<p>MICE政策については、「京都観光振興計画2025」の柱の一つに「MICEの振興」を掲げ、積極的に取り組んできたところですが、次期計画では、MICE政策の重要性に鑑み、計画のタイトルを「京都観光・MICE振興計画2030」（仮称）としたところです。</p> <p>今後、「市民生活と観光をつなぐプロジェクト」、「暮らすように旅をつむぐプロジェクト」及び「MICEでつどうプロジェクト」を推進し、新たな文化や産業の創出、京都の魅力・活力の向上につながる観光・MICEを目指してまいります。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に根付いた暮らしを守るエリアと、再開発によりこれから成長させるエリアの棲み分けを図ってほしい。 	1	<p>本市では、「京都市都市計画マスターplan」に基づき都市づくりを行っており、その中で、市域を保全、再生、創造ゾーンに分類するなど、エリアの特性に応じた都市計画を進めているところです。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有するとともに、今後の参考とさせていただきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊費が事前決済の場合も、宿泊税は宿泊施設のフロントで徴収しているが、トラブル防止のために、宿泊税も事前決済方式としてほしい。 	1	<p>宿泊税の徴収については、特別徴収義務者である宿泊事業者の皆様にお願いしているところであります、徴収方法は特に指定しておらず、宿泊事業者がそれぞれの実情に応じて任意に選択しております。本市としては、徴収事務の効率化を図る観点から、令和7年度から宿泊税特別徴収事務補助金の補助率をキャッシュレス支払における手数料分等を加味して2.5%から3.0%（令和7年度交付分からの5年間は3.5%）に引き上げております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> 害虫被害による竹林の景観への影響、不十分な文化財保護、クマの出没などにより京都の観光への影響が出る恐れがある。様々な部局の連携により京都の魅力を守る必要がある。 	1	<p>景観や文化財等の保護、市民・観光客双方の安心・安全の確保の観点からも、獣害対策は重要な取組であると認識しております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の事業実施の際の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
9	・ 地震や火事のリスクを考えれば町家は残さずに建て替えるべき。	1	<p>本市では、歴史都市京都の特性を活かしつつ、市民が安心・安全に住み続けられる災害に強いまちづくりを進めており、歴史、文化及び町並みの象徴である京町家の保全・継承をはじめ、京都らしい風情や良好なコミュニティを維持・継承しつつ、地域全体の安全性を確保する取組を推進しているところです。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
10	・ 先斗町は防災上問題があるため、耐火建物への建て替え等を促進するべき。	1	<p>当該エリアは準防火地域に指定しており、建て替え等に際して必要な防火措置を講じる必要があります。また、同エリアは先斗町界わい景観整備地区の指定を受け、景観づくり協議会制度を活用するなど、町並み保全をはじめとした景観づくりに取り組むとともに、防火・防災対策にも積極的に取り組まれており、これらの活動を引き続き支援してまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
11	・ 宿泊施設における災害やパンデミックに備えた積立てや設備投資に対する税制優遇措置が必要である。その際、災害時の避難施設として受入れに協力することを絶対条件とすべき。	1	<p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、本市では、寺社や宿泊施設等の皆様の御協力の下、災害発生時における帰宅困難者対策に取り組んでおり、新規開業した宿泊施設に対しても、個々に協力要請を行っているところです。</p>
12	・ 花木や草花の植栽を増やし、人の心を和らげる「花」のある空間をたくさんつくってもらいたい。	1	<p>本市では、街路樹の巨木化や老朽化が進み、通行に支障が出ている路線について、順次植替えを実施しており、植替えの際は花木への樹種転換も行っております。また、御池通の「スponサー花壇」や「和の花花壇」において草花の植栽、育成を行っております。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
13	・ 「歩くまちづくり」を推進してもらいたい。まちを歩くことは、まちを知ること、人と出会うことであり、まちを大切にする気持ちも育まれる。	1	<p>「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進するため、健康、環境、観光などの幅広い観点から、人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現を目指し、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>
14	・ 国において副首都構想が進められているが、双京構想と連携させ、近畿全体で首都機能を回復する運動に昇華させるべき。	1	<p>東京圏への一極集中は、経済的、社会的に望ましくなく、何らかの形で経済・社会機能、防災・災害対応機能などの首都機能を日本全体でバックアップすることは大事であると考えておりますが、現時点での副首都構想の要件などが具体的に示されていないため、今後、状況を注視してまいります。</p> <p>また、その議論の動向にかかわらず、双京構想の実現に向けては、歴史・文化の都として、皇室ゆかりの地として、引き続き、しっかりと取り組んでまいります。</p>
15	・ 地下鉄は赤字なのにスタンプラリー等にお金をかけすぎである。	1	<p>地下鉄駅を利用したスタンプラリーは、増収増客や利用の少ない周辺部へ誘客が期待できる取組として、業界団体に御協力いただき、経費を抑えた上で実施し、多くのお客様にご利用いただいてまいりました。今後も、増収増客につながる取組を進めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
16	・ 京都市内において外国人観光客の大麻使用が疑われる場面に遭遇した。京都の治安を守り、観光と市民生活の調和を実現するため、国への法改正の働きかけや、取締りの強化、法令の周知をお願いしたい。	1	現在、薬物乱用防止の啓発事業として、学校等への講師派遣や繁華街等での街頭啓発活動を行っております。また、啓発ポスターや動画を作成し、市内学校及び関係団体等への掲示やSNSを利用した広告配信も実施しております。 いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。
17	・ 外国人の不動産取得に関して、京都独自の強い規制を設けるべき。	1	外国資本の不動産投資の規制については、憲法上保障された財産権の制限となることや安全保障上の観点、国際的な経済ルールとの兼ね合いもあることから、国において適切に議論されるべきものと考えております。
18	・ こどもみらい館は誰でも無料で利用でき、外国人の利用が多いが、市民のための施設であるため市民の利用に限定すべきではないか。	1	こどもみらい館は、乳幼児の健やかな育成を図るため、子育ての支援に資する事業を総合的に行う施設であり、利用者は市民に限定しておりません。 いただいた御意見は、関係部署とも共有のうえ、今後の参考とさせていただきます。
19	・ (その他質問等)	11	-

「京都観光モラル」の名称変更に対する主な御意見

No	主な御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
1	・ 具体的な新名称案に関する御意見（「京都はんなり観光宣言」、「京都スタイル」、「ツーリストシップ」など）	45	中間案で示した新名称案である「京都観光プロミス」に対する否定的な御意見や、「京都観光モラル」を支持する御意見に加えて、特に観光客に対して「京都観光モラル」の考え方を実践いただくために、より分かりやすい表現を活用し、考え方を浸透させることこそが肝要であるという趣旨の御意見を数多くいただきました。
2	・ 中間案で示した新名称案（「京都観光プロミス」）に関する御意見（概ね否定的な御意見）	20	
3	・ 「京都観光モラル」に関する御意見（肯定的な意見が複数寄せられた一方で、否定的な意見も寄せられた。）	24	
4	・ 内容の浸透を重視する御意見（名称の変更ではなく、観光マナーの啓発等を通じて、「京都観光モラル」の内容を浸透させることが肝要であるという趣旨）	17	これらの御意見を踏まえ、名称について、「京都観光プロミス」は採用せず、引き続き「京都観光モラル」を用いることといたします。
5	・ その他の御意見（名称変更に関する考え方の提案に加えて、厳しい罰則を設けるべきという趣旨の御意見等）	29	その上で、観光客に対しては、より分かりやすい表現を用いて訴求するため、京都で生まれた「ツーリストシップ」という言葉を用いて情報発信していく旨を反映しました。